

YAMAHA
Clavinova[®]

CLP-555

● 取扱説明書



安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願い致します。

記号表示について

この機器の裏側に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

△ 記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、△は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険



があることを警告しています。また、△は注意が必要なことを示しています。

⊘ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

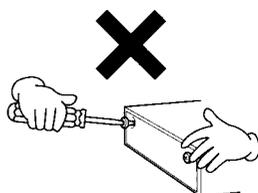
*お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

⊘ この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



⊘ 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。感電や火災、または故障の原因になります。

⊘ 電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

● 電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

⊘ 手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

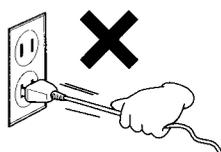
● 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。

注意

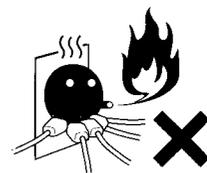
この表示内容を見逃した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

⊘ 電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

● 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。

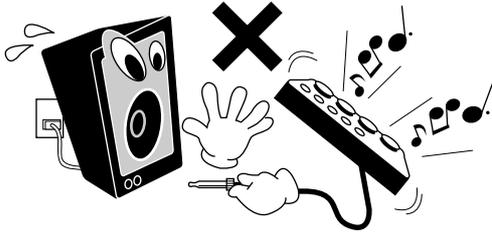


⊘ タコ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。

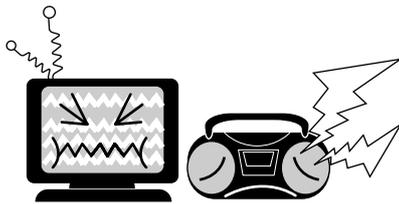


● 長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電、ショート、発火などの原因になります。

- ❗ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。感電または機器の損傷のおそれがあります。



- ⊘ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。
- ⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



- ⊘ 不安定な場所に置かない。機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。
- ❗ 本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。
- ❗ 本体のほこりや汚れは、柔らかい布で軽く拭き取る。強く拭くと、ほこりの粒子で本体の表面に傷がつく場合があります。
- ⊘ 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- ⊘ 本体の表面に金属、陶器、その他硬い物を当てない。表面にひびが入ったり、剥がれたりする場合があります。
- ⊘ 本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。
- ⚠ キーカバーで指などはさまないように注意する。また、キーカバーのすき間に手や指を入れない。お客様がけがをするおそれがあります。
- ⊘ キーカバーや鍵盤のすき間から金属や紙片などを落とさない。感電、ショート、発火や故障などの原因になります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

- ⊘ 本体を壁につけない。換気が十分でない、本体内部に熱がこもり、火災が発生するおそれがあります。壁から3cm以上離してください。
- ❗ 組み立てる前に、必ず本書または別紙の組み立て方の説明をよくお読みください。手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。
- ⊘ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。聴覚障害の原因になります。

イスについて

- ⊘ イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。
- ⊘ イスには二人以上ですわらない。イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。
- ⊘ イスにすわったままでイスの高さを調節しない。イスにすわったままイスの高さを調節すると、高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをしたりする原因になります。
- ❗ イスを長期間使用すると、イスのボルトがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

作成したデータの保存について

- ❗ 作成したデータは、故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、ヤマハディスクオーケストラユニットDOU-10などの外部機器に保存することをおすすめします。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドフォンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

* この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

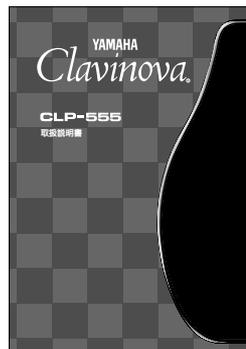
このたびは、ヤマハクラビノーバCLP-555をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。
CLP-555の優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくために、本書をご活用いただきますようご案内申し上げます。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してくださいませよう、お願い申し上げます。

付属品(お確かめください)

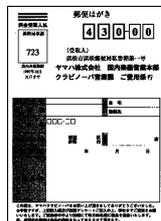
保証書



取扱説明書(本書)

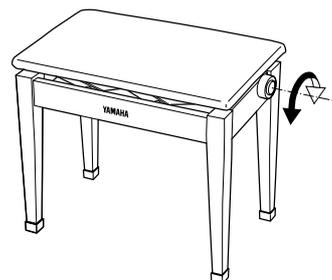


ご愛用者カード



専用高低自在イス

ご自分の演奏しやすい高さに調節してお使いいただけます。

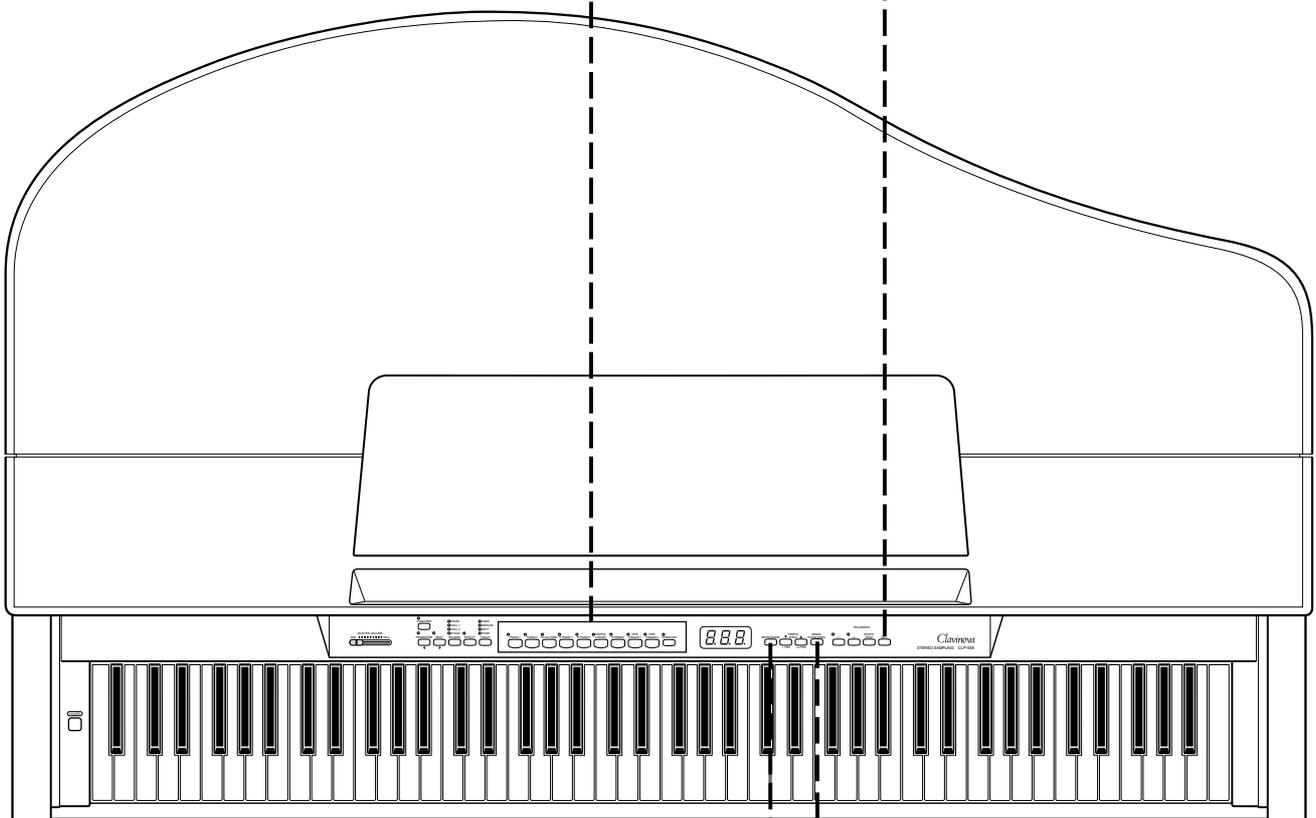


CLP-555でこんなことができます

リアルなピアノ音色と、
リアルなタッチで、本格的なピアノらしい演奏が楽しめます。

ピアノ以外の音色でも演奏できます。
(P19 ~ 25、49)

ご自分の演奏を録音/再生できます。
(P26 ~ 31)



底面の端子を使って
ディスクオーケストラ
ユニット DOU-10など
をつなぐと、別売の
ディスクソフトを再生
するなど多彩な楽しみ
方ができます。
(P41 ~ 44)

「音量調節ができる」
「ヘッドフォンで練習できる」
「調律不要」
と、便利で経済的です。

本体にピアノ30曲の演奏データが
入っています。これらを鑑賞するだ
けでなく、便利な練習機能を使って
練習することもできます。
(P14 ~ 18、50)

メトロノーム機能が、練習の
お役に立ちます。(P25)

取扱説明書(本書)はこんなふうにお役に立ちます

この本は、「準備」「本編」「付録」の3部構成になっています。

- **準 備** / 最初にお読みください。
- **本 編** / CLP-555の機能を詳しく説明しています。
- **付 録** / 資料を掲載しています。

表記上の決まり

【 】: パネル上にあるボタン類を示します。この場合、ボタン、スライダー、ジャック(端子)といった言葉は省略します。たとえば、マスターボリュームのスライダーは、文章中で【MASTER VOLUME】と表記します。

・本書では、以下に示すような矢印を使って操作の結果と手順を区別しています。

⇨	の操作を行った結果、 (操作の結果を示します。)	の状態になることを示しています。
➡	の操作を行ったあと、 (操作の手順を示します。)	の操作を示しています。

本書で使用しているディスプレイのイラストは、説明のための1つの例にすぎません。お使いのクラブノーバの状態によって、イラストと異なる表示が出る場合もありますのでご了承ください。

目次

準備

安全上のご注意	巻頭
付属品(お確かめください)	2
CLP-555でこんなことができます	3
取扱説明書(本書)はこんなふうにお役に立ちます	4
ご使用前の準備	6

本編

各部の名前	10
操作の基本と共通機能	12
デモ曲/ピアノ曲を楽しむ	14
デモ曲を聞く	15
ピアノ30曲を聞く	16
ピアノ30曲の片手練習	17
ピアノ30曲の部分練習	18
音色を選んで弾く	19
音色を選ぶ	19
ペダルを使う	19
音に変化を付ける...【 <small>バリエーション</small> VARIATION】【 <small>リバーブ</small> REVERB】 【 <small>エフェクト</small> EFFECT】	20
【 <small>タッチ</small> TOUCH】	21
【 <small>トランスポーズ</small> TRANSCOPE】	22
「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く)	23
「スプリット」で弾く(鍵盤を左右に分けて 別々の2つの音色で弾く)	24
【 <small>メトロノーム</small> METRONOME】を使う	25
演奏の録音(記録)	26
録音の手順(1つのトラックへの録音)	26
録音し直す場合	27
続いて2つめのトラックへ録音する場合	28
録音(記録)されるデータの種類	28
初期値の変更	29
録音上の注意	29
録音した曲の再生	30
再生の基本手順	30
再生に関する便利な機能	30

ファンクション	32
ファンクションでの基本操作	33
各ファンクション項目の説明	34
・F1. 音程の微調整	34
・F2. 音律(調律法)の選択	34
・F3. デュアルの諸設定	35
・F4. スプリットの諸設定	36
・F5. メトロノームの諸設定	37
・F6. 左ペダル機能の設定	37
・F7. ピアノ30曲のパート再生OFF時の音量設定	37
・F8. MIDI機能の諸設定	37
・F9. <small>オン/オフ</small> バックアップON/OFFの設定	39
他の機器と接続する端子	41
パーソナルコンピューターとの接続	43
故障かな?と思ったら	45

付録

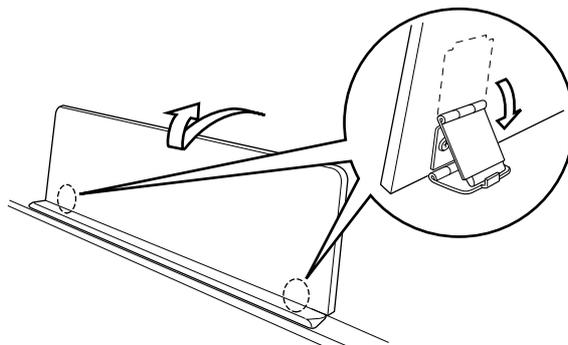
MIDIについて	48
音色のご紹介	49
デモ曲/ピアノ曲 曲名一覧表	50
基本設定一覧表	51
MIDIデータフォーマット	52
MIDIインプリメンテーションチャート	55
別売品のご紹介	56
仕様	57
CLP-555の組み立て方	58
索引	62
メモ	63
保証とアフターサービス	65

ご使用前の準備

■ 譜面立てについて

立てるとき

1. 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
2. 譜面立て後ろ側の金具2つを、下向きに開きます。
3. 金具2つが固定される位置まで、譜面立てを戻します。



倒すとき

1. 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
2. 譜面立て後ろ側の金具2つを、上向きに閉じます。
3. 譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。

ノート 譜面立ては、中間位置で使用または放置しないでください。
また、譜面立てを倒すときは、途中で手を離さないでください。

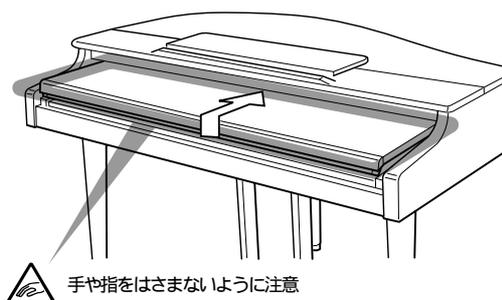
■ キーカバー(けんばんぶた 鍵盤蓋)について

開けるとき

1. 少しだけ持ち上げます。
2. 奥へすべらせて開けます。

閉めるとき

1. 手前へすべさせます。
2. 手を添えて静かに降ろします。



手や指をはさまないように注意



キーカバーを開閉するときは、両手で静かに行い、途中で手を離さないでください。
また、ご自分や周りの方(特にお子様など)が、キーカバーの端と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。



キーカバーを開けるとき、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。
本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。

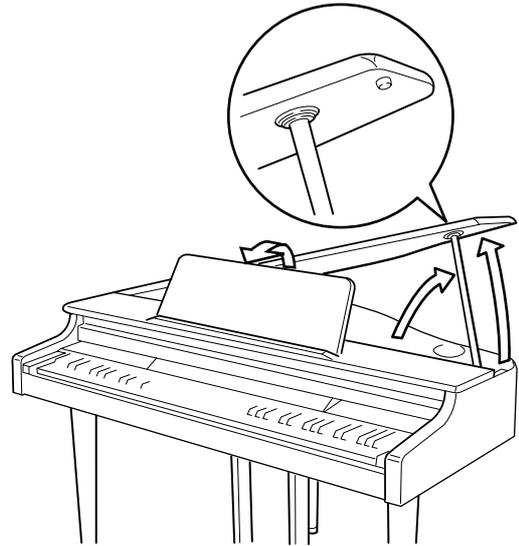
■ 屋根について

開けるとき

1. 前記の「譜面立てについて」で述べた要領で、譜面立てを立てます。
2. 鍵盤側から見て屋根の右側を持ち上げて支えます。
3. 突上棒を立てて、その先が屋根の受皿にはまるまで、屋根をゆっくりと降ろします。

閉めるとき

1. 突上棒を支えながら屋根を持ち上げて突上棒を受皿からはずし、突上棒と屋根をゆっくりと降ろします。
2. 前記の「譜面立てについて」で述べた要領で、譜面立てを倒します。



屋根の開閉時には、手や指をはさまないようにご注意ください。



突上棒の先端を、受皿に確実にはめてください。
受皿にしっかりはまっていないと、屋根が落ちて損傷、けがの原因になります。

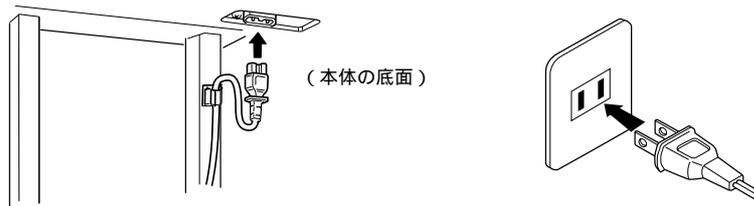


屋根が開いているときは、ご自分や周りの方が突上棒に触れないようにご注意ください。
突上棒に触れると、突上棒の先端が受皿から外れて屋根が落ち、損傷、けがの原因になります。

■ 電源を入れる

1. 電源コードを接続する

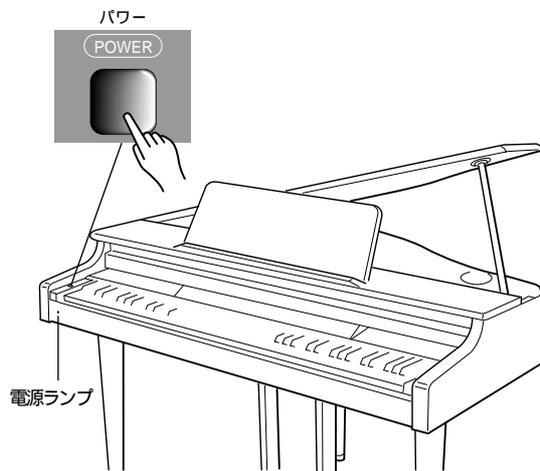
電源コードの両端のプラグを、本体とコンセント(家庭用AC100V)にそれぞれ差し込みます。



2. 電源を入れる

本体パネル左の【POWER】^{パワー}を押すと

☞ 電源が入ります。本体パネル中央のディスプレイに表示が表れます。また、本体前面左の電源ランプも点灯します。



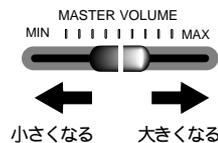
通常はテンポが表示されます。

電源を切るときは、もう1度【POWER】^{パワー}を押します。

☞ ディスプレイの表示が消え、本体前面左の電源ランプも消灯します。

■ 音量(ボリューム)調節

【MASTER VOLUME】^{マスターボリューム}を左右に動かして調節します。実際に鍵盤を弾いたりなど音を出しながら、音量を調節してください。



MASTER = 全体を制御する
VOLUME = 音量

【MASTER VOLUME】^{マスターボリューム}で、【PHONES】^{フォーンズ}やAUX OUT の出力レベルも調節されます。

■ ヘッドフォンを使う場合

ヘッドフォン(別売)を【PHONES】^{フォーンズ}端子に接続して使います。

ヘッドフォンを接続するとクラビノーバ本体のスピーカーからは音が出ません。

また、【PHONES】^{フォーンズ}端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。



推奨ヘッドフォン...
YAMAHAヘッドフォン HPE-160
(税別価格: 5,500円)

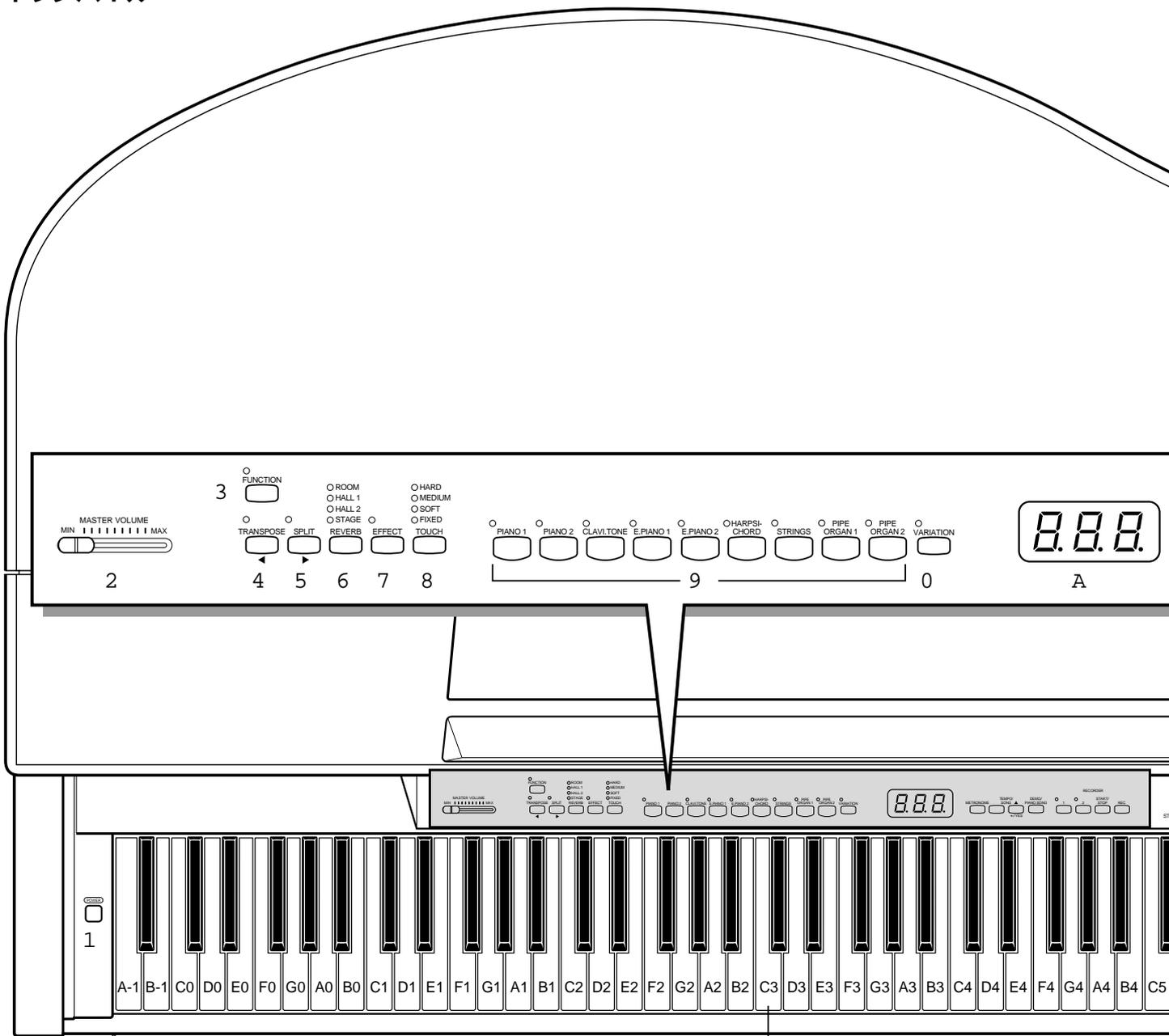
本編

CLP-555の機能を詳しく説明しています。

各部の名前	P10	ファンクション	P32
操作の基本と共通機能	P12	ファンクションでの基本操作	P33
デモ曲/ピアノ曲を楽しむ	P14	各ファンクション項目の説明	P34
デモ曲を聞く	P15	・F1. 音程の微調整	P34
ピアノ30曲を聞く	P16	・F2. 音律(調律法)の選択	P34
ピアノ30曲の片手練習	P17	・F3. デュアルの諸設定	P35
ピアノ30曲の部分練習	P18	・F4. スプリットの諸設定	P36
音色を選んで弾く	P19	・F5. メトロノームの諸設定	P37
音色を選ぶ	P19	・F6. 左ペダル機能の設定	P37
ペダルを使う	P19	・F7. ピアノ30曲のパート再生	
音に変化を付ける...【VARIATION】		OFF時の音量設定	P37
【REVERB】【EFFECT】	P20	・F8. MIDI機能の諸設定	P37
【TOUCH】	P21	・F9. バックアップON/OFFの設定	P39
【TRANSPOSE】	P22	他の機器と接続する端子	P41
「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く)...	P23	パーソナルコンピューターとの接続	P43
「スプリット」で弾く(鍵盤を左右に分けて		故障かな?と思ったら	P45
別々の2つの音色で弾く)	P24		
【METRONOME】を使う	P25		
演奏の録音(記録)	P26		
録音の手順(1つのトラックへの録音)	P26		
録音し直す場合	P27		
続いて2つめのトラックへ録音する場合	P28		
録音(記録)されるデータの種類	P28		
初期値の変更	P29		
録音上の注意	P29		
録音した曲の再生	P30		
再生の基本手順	P30		
再生に関する便利な機能	P30		

各部の名前

トップパネル

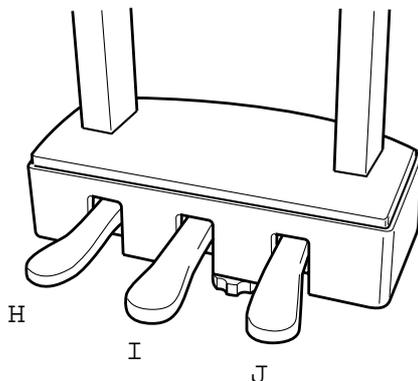


K

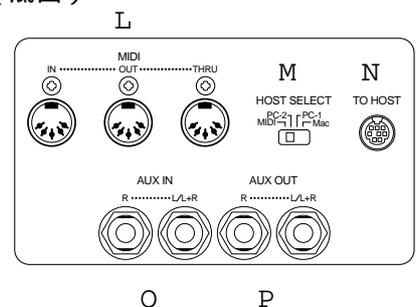
(底面 鍵盤の下)

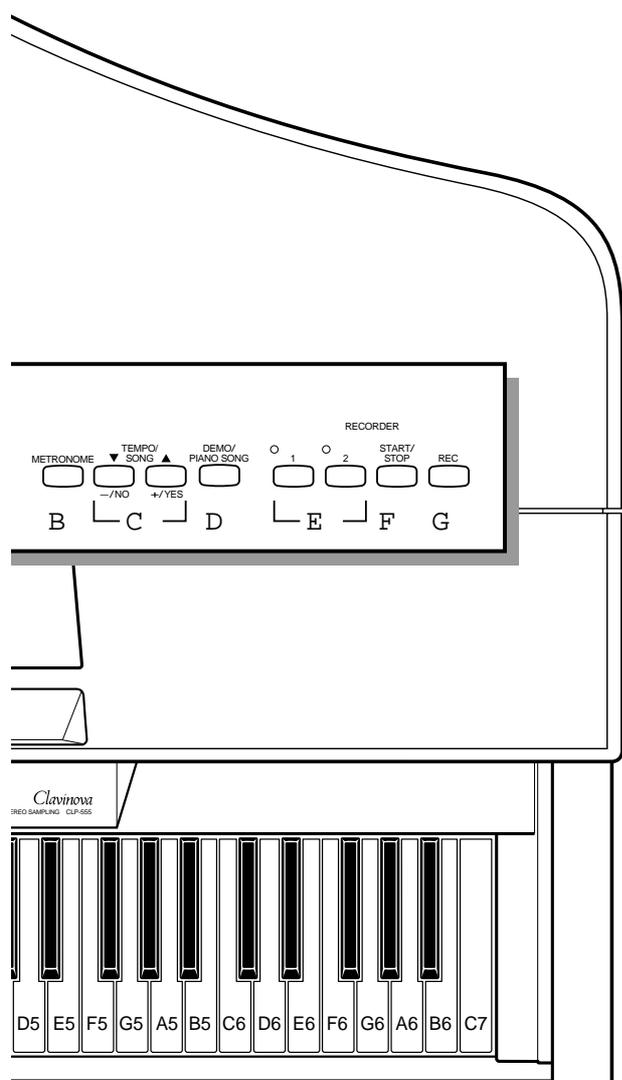
中央の「ド」

本編



(底面)





1	^{パワー} 【POWER】	P8
2	^{マスター ボリューム} 【MASTER VOLUME】	P8
3	^{ファンクション} 【FUNCTION】	P32 ~ 40
4	^{トランスポーズ} 【TRANSCOPE】 / 【・】	P22
5	^{スプリット} 【SPLIT】 / 【ヲ】	P24
6	^{リバーブ} 【REVERB】	P20
7	^{エフェクト} 【EFFECT】	P21
8	^{タッチ} 【TOUCH】	P21
9	音色ボタン	P19
0	^{バリエーション} 【VARIATION】	P20
A	ディスプレイ	P12
B	^{メトロノーム} 【METRONOME】	P25
C	^{テンポ/ソング} TEMPO/SONG【 X 】 / ^{ノー} 【 - /NO X + /YES】	P12, 33
D	^{デモ/ピアノソング} 【DEMO/PIANO SONG】	P14
E	^{レコーダー} RECORDER【1】【2】	P27, 30
F	^{スタート/ストップ} 【START/STOP】	P15 ~ 18、27, 30
G	^{レコード} 【REC】	P26
H	左のペダル(ソフトペダル)	P20
I	まん中のペダル(サステヌートペダル) ..	P20
J	右のペダル(ダンパーペダル)	P19
K	^{フォーンズ} 【PHONES】	P41
L	^{ミディ イン アウト スルー} 【MIDI【IN】【OUT】【THRU】	P42, 48
M	^{ホスト セレクト} HOST SELECT【MIDI】 ^{マキントッシュ} 【PC-2】【PC-1】【Mac】	P42, 43 ~ 44
N	^{トゥー ホスト} 【TO HOST】	P42, 43 ~ 44
O	AUX IN【R】【L/L+R】	P42
P	AUX OUT【R】【L/L+R】	P42

操作の基本と共通機能

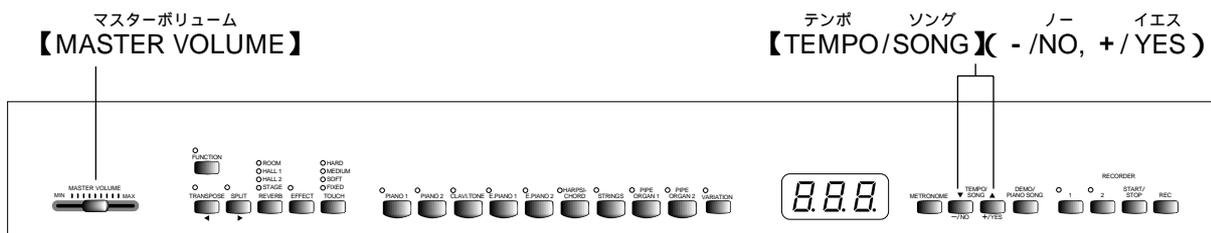
取扱説明書の「本編」をお読みいただく上で必要な「操作の基本と共通機能」を説明します。必ずお読みください。

■ 操作の基本

操作の基本はパネルのボタンを押すだけです。
操作の結果をパネル中央のディスプレイで確認しながら進めてください。
場面に応じて、たとえば下記のような表示になります。



■ いろいろな場面でよく使うボタン



マスターボリューム 【MASTER VOLUME】

音量を調節します。

テンポ ソング ノー イエス TEMPO/SONG【 X X - /NO, + /YES】

この2つのボタン【 X】と【 X】は、場面に応じて下記のように異なる働きをします。

テンポ ・ TEMPOの調節

メトロノームを使うときや、デモ曲 / ピアノ曲、録音した曲の再生時のテンポを調節します。32 ~ 280 (1分間の拍数) の範囲で設定できます。ボタンを押し続けると値が連続して変わります。【 X】と【 X】を同時に押すと、標準テンポ(録音した曲に設定されているテンポ、または120)に戻ります。

ソング ・ SONGの選択

ピアノ30曲の曲を選びます。ボタンを押し続けると曲番号が連続して変わります。

ノー / NO, + / YES機能

各種の値を設定、選択したり、操作の実行(YES)や中止(NO)を行います。多くの場合、ボタンを押し続けると値が連続して変わります。その場合、項目によって最大値、最小値でストップする場合と、循環して変わる場合があります。【 X】と【 X】を同時に押すと、基本設定(工場出荷時の設定)に戻ります。

メモリーバックアップについて

基本設定(工場出荷時の設定)では、バックアップはすべてOFF(バックアップされない)になっています。バックアップON/OFFの設定は、ファンクション項目の「F9.」で設定内容のグループごとに任意に切り替えることができます。ただし、「メモリーに録音された演奏データ」及び「バックアップON/OFFの設定」自体は常にバックアップされます。

バックアップの設定をONにしても、電源を切って約1週間以上過ぎると、バックアップされている内容が消え、すべての設定内容が基本設定(工場出荷時の設定)に戻ってしまいます。したがって、バックアップされている内容を1週間以上保持したい場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。

CLP-555の機能の全体構成

大きく下記3つの機能があります。

演奏に関する機能(P19～25)

録音/再生に関する機能(P26～31)

ファンクションの各機能(P32～40)

ファンクションとは...

CLP-555をお使いいただく上での各種の設定を、ご自分の使いやすい状態に設定する機能です。特に設定をしなくても工場出荷時に基本的な設定になっていますが、特に独自の設定をしたいときに、ご利用ください。

また、各種の応用的な操作がファンクションにまとめられています。(P32～40)

メモリーとは...

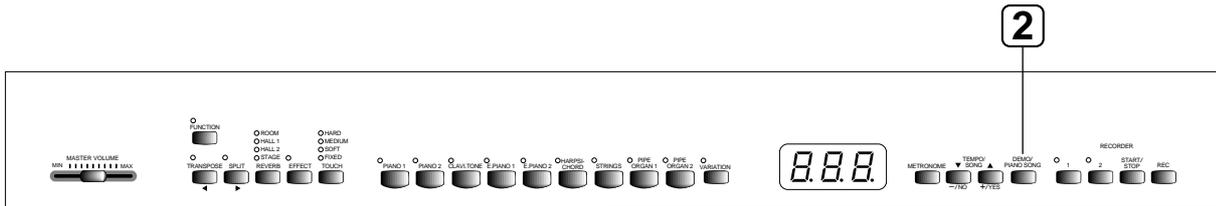
いろいろな設定や録音データが記憶される、CLP-555本体内部の記憶装置のことです。

バックアップとは...

メモリーに記憶されている内容を電源を切っても消さずに残しておくことを言います。バックアップをONにしておくと、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。バックアップをOFFにしておくと、次回電源を入れたときは基本設定(工場出荷時の設定)に戻ります。基本設定一覧表がP51に掲載されています。

デモ曲/ピアノ曲を楽しむ

CLP-555には、音色ごとに1曲ずつのデモ曲と、ピアノ模範演奏30曲が入っています。聞いてみましょう。ピアノ模範演奏30曲では、右手または左手パートを再生OFFにしてご自分で練習したり、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習(部分練習)したりすることができます。



操作

1 電源を入れる

(まだ電源を入れていない場合【POWER】^{パワー}を押します。

⇒ 電源が入ります。

音量はあとでデモ曲/ピアノ曲を実際に再生して聞きながら調節しますが、とりあえず【MASTER VOLUME】^{マスターボリューム}を中程まで上げておきます。

2 デモ曲/ピアノ曲モードに入る

パネル右ブロックの【DEMO/PIANO SONG】^{デモ ピアノソング}を押します。

⇒ 音色ボタンのランプが流れるように点滅します。

このあと、音色デモ曲の聞き方と、ピアノ模範演奏30曲(以降「ピアノ30曲」と呼びます)の聞き方/楽しみ方に分けて説明します。

デモ曲/ピアノ曲の曲名リスト...

音色ごとのデモ曲には、各音色の特長がよくわかる曲が選ばれています。ピアノ模範演奏30曲にはピアノのレッスンでよく使われる曲が集められています。曲名と、ピアノ30曲の参考楽譜のリストをP50に掲載しています。

デモ曲/ピアノ曲の再生データはMIDI送信されません。また、デモ曲/ピアノ曲モード中はMIDI受信を行いません。

録音モード(P26)のときと、曲の再生中(P30)は...

デモ曲/ピアノ曲モードには入れません。

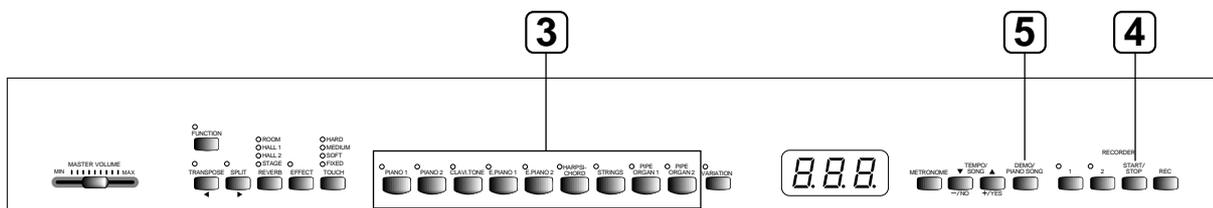
モードとは...

ある機能を実行できる状態を意味します。たとえば、ファンクションという機能を使える状態のことをファンクションモードと言います。また、「種類」とか「方式」という意味に使われる場合もあります。

ソング SONGとは...

クラビノーバでは、演奏データを総称して「ソング(SONG)」と呼んでいます。デモ曲/ピアノ曲も演奏データですので【DEMO/PIANO SONG】と呼んでいます。

■ デモ曲を聞く



P15の操作 1、2に続いて

3 選曲と再生スタート

聞きたいデモ曲の音色ボタンを押します。
 □> デモ曲の再生がスタートします。

音量の調節

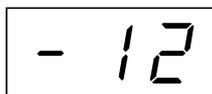
デモ曲を聞きながら【MASTER VOLUME^{マスターボリューム}】で音量を調節します。

テンポの調節

デモ曲ごとに固有のテンポが設定されていますが、再生中に^{テンポ}TEMPO/SONG

【 X 】を押してテンポを変更できます。

【 X 】を同時に押すと元のテンポに戻ります。



元のテンポに対してのプラスマイナスの値 (-99 ~ 0 ~ 99) で表示されます。元のテンポのときは「 」と表示されます

4 再生ストップ

再生をストップする場合は、【START/STOP^{スタート ストップ}】か再生中の音色ボタン(再生中は点滅しています)を押します。

5 デモ曲/ピアノ曲モードを抜ける

【DEMO/PIANO SONG^{デモ ピアノソング}】を押します。

□> 音色ボタンのランプの流れるような点滅が止まります。

連続再生...

デモ曲/ピアノ30曲すべてを順番に、または順不同に連続再生させることもできます。次項「ピアノ30曲を聞く」の操作3をご覧ください。

【VARIATION^{バリエーション}】を押すと...

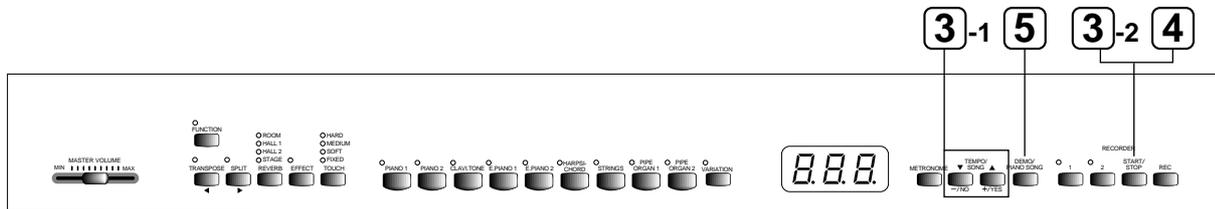
音色デモでなく、ピアノ30曲の中からランダムに曲が選ばれ再生されます。

テンポのリセット(再設定)...

新しい曲を選ぶと(または連続再生で新しい曲がスタートすると)テンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

デモ曲では「片手練習 (P17) や「部分練習 (P18) はできません。

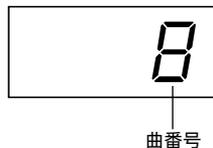
ピアノ30曲を聞く



P15の操作 1、2に続いて

3 選曲と再生スタート

3-1 ^{テンポ} ^{ソング} **TEMPO/SONG**【 **X** 】を押して聞くピアノ曲を選びます。



1、2、3～30： 聞く曲番号を指定します。
1曲だけ再生するモードです。

ALL： オール デモ曲とピアノ30曲を順番に連続再生するモードです。

rnd： ランダム デモ曲とピアノ30曲を順不同に連続再生するモードです。

また、**VARIATION** ^{バリエーション}を押すとピアノ30曲の中からランダムに曲が選ばれ、再生がスタートします。(この場合は即スタートします。)

3-2 ^{スタート} ^{ストップ} **START/STOP**を押すと再生がスタートします。

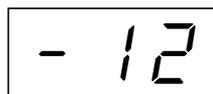
音量の調節

ピアノ曲を聞きながら^{マスターボリューム} **MASTER VOLUME**で音量を調節します。

テンポの調節

ピアノ曲ごとに固有のテンポが設定されていますが、再生中に、^{テンポ} ^{ソング} **TEMPO/SONG**【 **X** 】を押してテンポを変更できます。

【 **X** 】を同時に押すと元のテンポに戻ります。



元のテンポに対してのプラスマイナスの値 (-99~0~99)で表示されます。元のテンポのときは「 」と表示されます

ALLを選んでから音色ボタンを押すと...

その音色のデモ曲から順番に連続再生します。

テンポのリセット(再設定)...

新しい曲を選ぶと(または、連続再生で新しい曲がスタートすると)テンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

4 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中に(または連続再生中に)ストップする場合は、^{スタート} ^{ストップ} **START/STOP**を押します。

・ 続いて他の曲を再生する場合は、操作3に戻ります。

5 デモ曲/ピアノ曲モードを抜ける

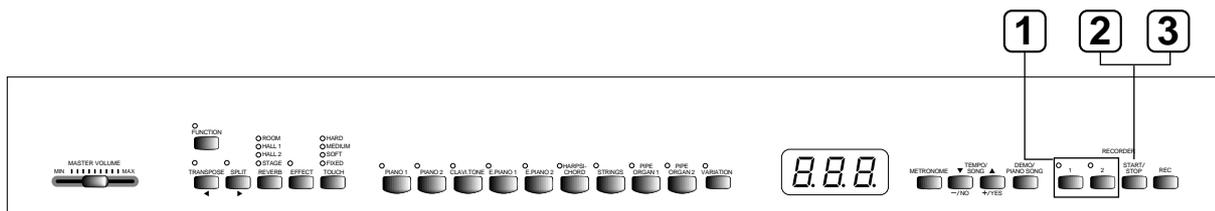
^{デモ} ^{ピアノソング} **DEMO/PIANO SONG**を押します。

⇨ 音色ボタンのランプの流れるような点滅が止まります。

次に、ピアノ30曲の、右手または左手部分を再生オフしてご自分で練習する方法(片手練習)と、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習する方法(部分練習)を説明します。

ピアノ30曲の片手練習

ピアノ30曲では、右手パートと左手パートが別々のトラックに入っています。それぞれを再生ON/OFFし、再生OFFしたパートをご自分で練習することができます。右手パートが【1】に、左手パートが【2】に入っています。



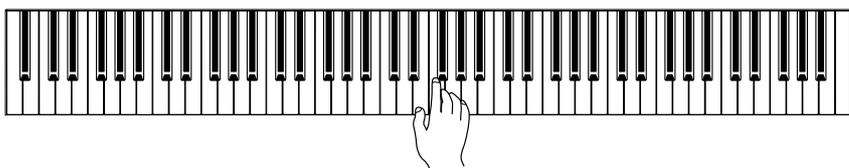
操作

1 練習するパートの再生をOFFにする

- 選曲したあと【1】【2】の再生OFFしたい方を押します。
 ⇨ 押した方のボタンのランプが消灯します。(選曲した時点では両方のランプが点灯します。)
 ・ それぞれのボタンは、押すごとに再生ON/OFFが切り替わります。

2 再生スタート/演奏

【START/STOP】を押して再生をスタートします。再生OFFしたパートをご自身で演奏してください。



弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。
 再生ONのパートのボタンを押したまま【START/STOP】を押すとシンクロスタート待機状態になります。
 ⇨ ディスプレイにシンクロスタートのマーク「.」が表れます。



このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。

左のペダルでスタート/ストップする

左のペダルでスタート/ストップすることができます。
 「ファンクションF6 (P37)で左のペダルの機能をスタート/ストップ(パネルの【START/STOP】と同じ機能)に切り替えます。

3 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中でストップする場合は、【START/STOP】を押します。

オールランダム ALLとrnd(P16参照)のときはできません。

再生中の、パートごとの再生ON/OFF...

再生中でも、パートごとの再生ON/OFFを切り替えることができます。

再生OFFしたパートの音量調節...

再生OFFしたパートは演奏タイミングのガイドのために、完全に音を消すのではなく、少しだけ音を出しています。この音量加減の調整や、完全に音を消す設定が「ファンクションF7」(P37)でできます。

シンクロ = 同時の、同時に起こる

再生OFFのパートのボタンを押したまま【START/STOP】を押すと...

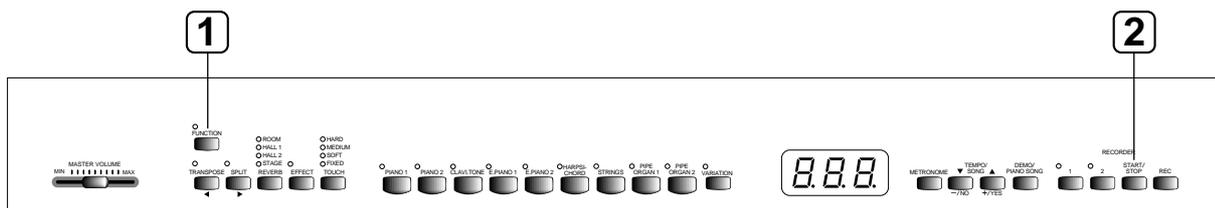
そのパートの再生がONになると共に、シンクロスタート待機状態になります。

パート再生のリセット(再設定)...

新しい曲を選ぶと自動的に両パート共再生ONにリセットされます。

ピアノ30曲の部分練習

曲中のフレーズを指定して繰り返し練習(部分練習)することができます。前記の「ピアノ30曲の片手練習」もいっしょにお使いいただけます。

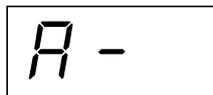


操作

1 フレーズの始まり A点 と終わり B点 の指定と練習スタート

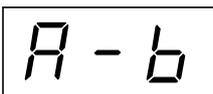
選曲し、再生をスタートします。聞きながら、始まり A点)にしたいところで【ファンクションFUNCTION】を押します。

⇒ 始まり A点 が設定され、ディスプレイに **A -** と表示されます。

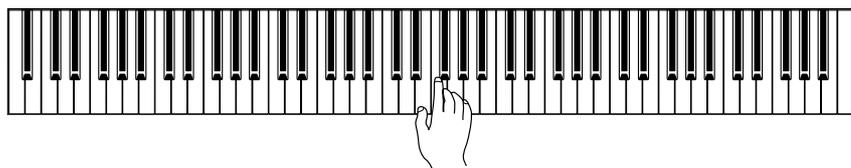


続いて、終わり B点)にしたいところでもう1度【ファンクションFUNCTION】を押します。

⇒ 終わり B点 が設定され、ディスプレイに **A - b** と表示されます。



同時に、A点に戻って繰り返し再生が自動的にスタートします。練習してください。



2 練習ストップ

A点、B点の設定を保ったまま一時練習をストップするときは【スタートSTART/ストップSTOP】を押します。(この場合、再度【スタートSTART/ストップSTOP】を押すと、再びA点～B点の繰り返し再生がスタートします。)

A点、B点の設定を解除するときは【ファンクションFUNCTION】を押します。

オール ランダム
ALLとrndのときはできません。

曲の先頭から繰り返しを始めた
いときは...

再生をスタートする前に
【ファンクションFUNCTION】を押して始まり A
点 を設定します。

新しい曲を選ぶと...
A点、B点は自動的に解
除されます。

音色を選んで弾く

CLP-555では、9種類の音色をお楽しみいただけます。

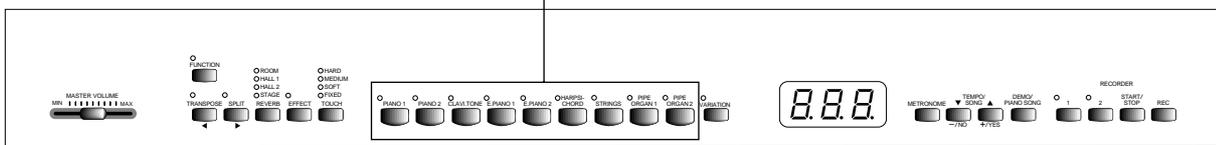
各音色で【**VARIATION**】^{バリエーション}や【**REVERB**】^{リバーブ}、【**EFFECT**】^{エフェクト}を使っていろいろに表情を変えることもできます。

また、2種類の音色を混ぜた(X =デュアル) 88個の鍵盤を左右の領域に分けて別々の音色で弾いた(X =スプリット)もできます。

【**METRONOME**】^{メトロノーム}もお使いいただけます。

音色を選ぶ

音色ボタン

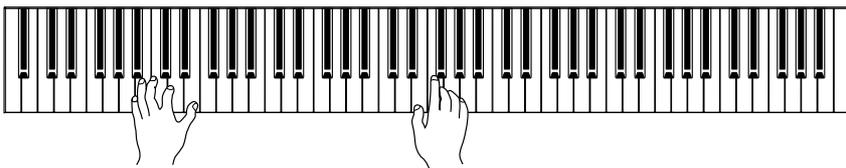


操作

使いたい音色ボタンを押します。

⇒ ランプが点灯します。

【**MASTER VOLUME**】^{マスターボリューム}で音量を調節しながら演奏してください。

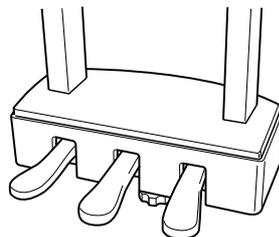


音色の特長を掴むには...

音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。(P15)

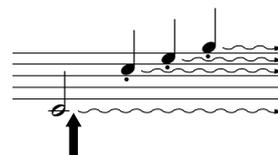
ペダルを使う

3本のペダルの使い方を説明します。



右のペダル(ダンパーペダル)

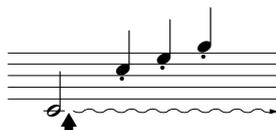
このペダルを踏んでいる間、弾いた音を、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

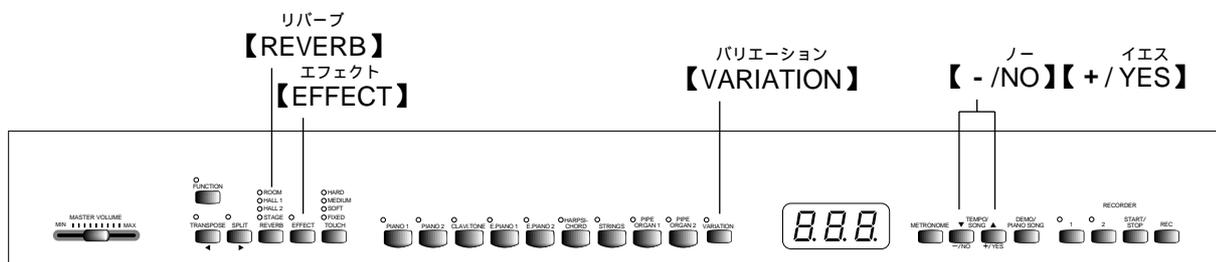
【STRINGS】^{ストリングス} 【PIPE ORGAN 1】^{パイプオルガン}
【PIPE ORGAN 2】の音色では...
ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。)

左のペダルの機能切り替え...
「ファンクションF6 (P37)」で左のペダルをパネルの【START/STOP】と同じ機能に切り替えることができます。

音に変化を付ける...【VARIATION】 【REVERB】【EFFECT】



バリエーション【VARIATION】

違った表情の音にします。

操作

【VARIATION】を押すごとにON/OFFが切り替わります。
⇒ ランプが点灯したときがONです。

リバーブ【REVERB】

音に残響を付けます。種類により、その場所で演奏しているような臨場感を味わえます。その深さ かかり具合 を変えることもできます。

- OFF： リバーブはかかりません。
- ROOM： 部屋の中にあるような響きになります。(=基本設定)
- HALL 1： 小さいコンサートホールにあるような響きになります。
- HALL 2： 大きいコンサートホールにあるような響きになります。
- STAGE： ステージにあるような響きになります。

操作

【REVERB】を押すごとに種類が切り換わります。
⇒ 選ばれている種類のランプが点灯します。OFFの場合はどのランプも点灯しません。

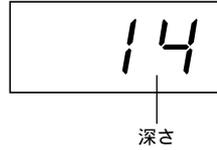
基本設定...OFF

リバーブの種類は【REVERB】を押して離したときに切り換わります。
【REVERB】を押したまま深さを変更したときは、【REVERB】を離しても種類は切り換わりません。

深さ かり具合 を変える

リバーブ
【REVERB】を押している間はディスプレイにリバーブの深さの値が表示されます。

リバーブ ノー イエス
【REVERB】を押したまま【- /NO】または【+ /YES】を押すと、深さの値(0~20、基本設定=10)が変わります。



深さ0 : 効果なし ~
深さ20 : 深さ最大

リバーブの種類と深さは全音色に共通の設定となります。

【EFFECT】

音に広がり感を付けます。

その深さ かり具合 を変えることもできます。

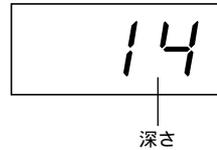
操作

エフェクト オン/オフ
【EFFECT】を押すごとにON/OFFが切り替わります。
ONのときランプが点灯します。

深さ かり具合 を変える

エフェクト オン エフェクト オフ
エフェクトONのときは、【EFFECT】を押している間ディスプレイにエフェクトの深さの値が表示されます。(OFFのときは表示されません。)

エフェクト ノー イエス
【EFFECT】を押したまま【- /NO】または【+ /YES】を押すと、深さの値(0~20)が変わります。



深さ0 : 効果なし ~
深さ20 : 深さ最大

基本設定...
音色ごとに標準の深さが設定されています。

タッチ

【TOUCH】

弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感)を4種類から選びます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

ハード
HARD : 強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアノシモからフォルティッシモまで表現豊かな演奏ができます。

ミディアム
MEDIUM : 標準的なタッチです。(= 基本設定)

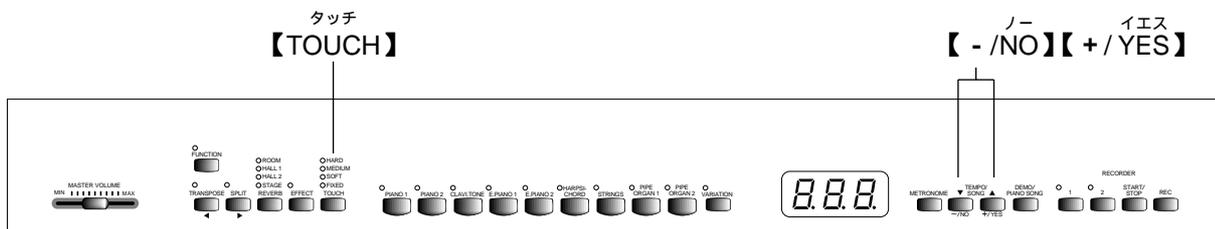
ソフト
SOFT : 軽いタッチで大きい音を出すことができます。比較的音のつづがそりやすいタッチです。

フィックス
FIXED : タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。その場合の音量を任意に設定することもできます。

鍵盤の重さ自体は変わりません。

ハード
HARD = 「努力を要する、骨の折れる」
ミディアム
MEDIUM = 「中間の、中位の」
ソフト
SOFT = 「やさしい、楽な」
フィックス
FIXED = 「固定された」

タッチの種類は全音色に共通の設定となります。

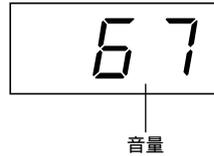


操作

【TOUCH】を押すごとに種類が切り換わります。
 ⇨ 選ばれている種類のランプが点灯します。

FIXEDの場合の音量を変える

FIXEDを選んでいるとき、**【TOUCH】**を押している間はディスプレイに音量を示す値が表示されます。
【TOUCH】を押したまま**【 - /NO】**または**【 + /YES】**を押すと、音量を示す値(1~127、基本設定=64)が変わります。



1 : 最小音量 ~
 127 : 最大音量

FIXEDの場合の音量も全音色に共通の設定となります。

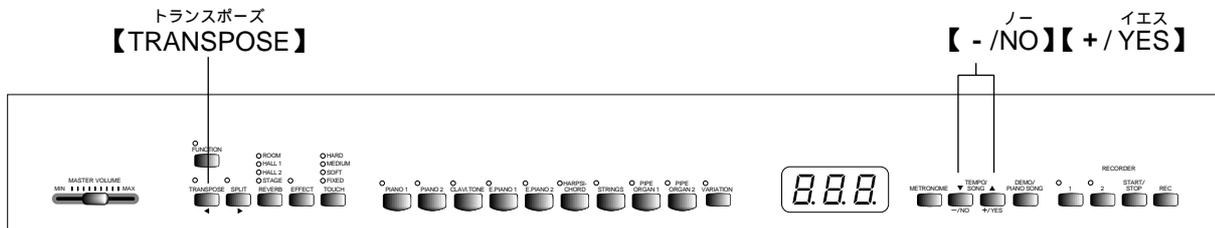
タッチの種類は**【TOUCH】**を押して離れたときに切り換わります。
【TOUCH】を押したままFIXEDの場合の音量を変更したときは、**【TOUCH】**を離しても種類は切り換わりません(FIXEDのままとなります)。

トランスポーズ

【TRANSCOPE】

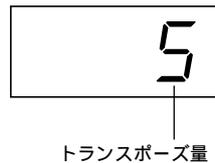
弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせたり、演奏する曲を移調したりします。半音単位でトランスポーズ量を設定できます。
 たとえばトランスポーズ量を「5」に設定すると、「ド」を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「八長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏になります。

トランスポーズ
TRANSCOPE:移調する
 移調:曲全体の音程を上げたり下げたりしてキー(調)を変えること。



操作

【TRANSCOPE】を押している間はディスプレイにトランスポーズ量の半音単位の値が表示されます。
【TRANSCOPE】を押したまま**【 - /NO】**または**【 + /YES】**を押すと、トランスポーズ量の半音単位の値(-12~0~12、基本設定=0)が変わります。



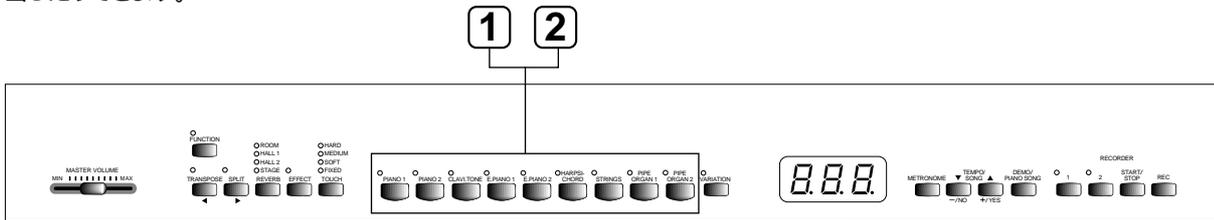
トランスポーズ量...
 -12 : -12半音(-1オクターブ)
 0 : 標準音程
 12 : 12半音(+1オクターブ)

トランスポーズをかけた場合の発音域について...
 トランスポーズによって、元の88鍵の最高音(C7)より高くなる音は1オクターブ下の音で、元の88鍵の最低音(A-1)より低くなる音は1オクターブ上の音で発音します。

【TRANSCOPE】のランプは、**【TRANSCOPE】**を押している間点灯しますが、トランスポーズ量が0以外に設定されたときは、操作後も引き続き、点灯し続けます。

「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く)

2種類の音色を混ぜて使います。2つの音色でメロディをデュエットさせたり、同系統の音色を混ぜて厚みのある音を作り出したりできます。



操作

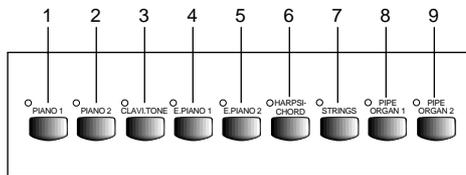
1 デュアルモードに入る

2つの音色ボタンを同時に押します。(=1つの音色ボタンを押したままもう1つの音色ボタンを押します。)

⇒ 2つの音色ボタンのランプが点灯します。

右記の優先順位で2つの音色のうち番号の若い方の音色が第1音色になります。

優先順位



デュアルでのいろいろな設定が「ファンクションF3 (P35)」でできます。(特に設定しなくても、基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

CLP-555では、「ファンクションF3」の中で、片方の音色に【STRINGS】を選んだときのストリングスのアタック(音の立ち上がり)の速さを遅くすることができます。

2 デュアルモードを抜ける

新たに1つの音色ボタンを押すとデュアルモードを抜けます。

デュアルとスプリット...

デュアルとスプリット(P24)を同時に使うことはできません。

デュアルのときの【VARIATION】...

両方または片方の音色の【VARIATION】がONになっているときにランプが点灯します。両音色ともOFFの場合には消灯します。その後【VARIATION】を押すごとに両音色ともON、両音色ともOFFを切り替えることができます。(片方だけONにしたい場合は、デュアルモードに入る前に音色ごとに【VARIATION】のON/OFFを設定しておく必要があります。)

デュアルのときの【EFFECT】...

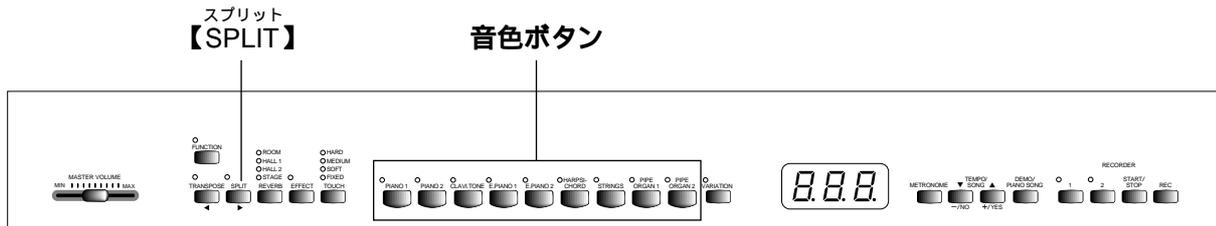
基本の設定(ON/OFFと深さ)が音色の組み合わせごとに自動的に選ばれます。

デュアルモードに入ったあとで【EFFECT】のON/OFFを切り換えた場合は、両音色共切り替わりません。

デュアルモードでのエフェクトの深さは「ファンクションF3 (P35)」で音色ごとに任意に設定することもできます。

「スプリット」で弾く(鍵域を左右に分けて別々の2つの音色で弾く)

88個の鍵盤を左右の領域に分け、別々の音色で演奏します。



操作

1 スプリットモードに入る

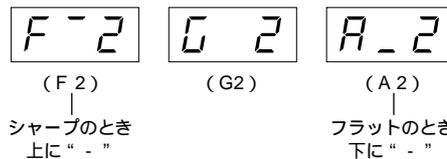
- スプリット【SPLIT】を押します。
 ⇨ ランプが点灯します。
 ⇨ この時点で、左側音色に基本設定の音色(^{ストリングス} STRINGS)が選ばれます。

スプリットでのいろいろな設定が「ファンクションF4 (P36)」でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

2 スプリットポイント(2 音色の境め)を決める

- スプリット【SPLIT】を押している間はディスプレイにスプリットポイントの鍵盤名が表示されます。
 【SPLIT】を押したまま、スプリットポイントにしたい鍵盤を押します。

スプリットポイントの鍵盤名の表示の例



スプリットポイントの基本設定は「F#2」です。変える必要がない場合はこの操作は必要ありません。

3 右側の音色を決める

- 演奏したい音色ボタンを押します。

4 左側の音色を決める

- スプリット【SPLIT】を押したまま、演奏したい音色ボタンを押します。(【SPLIT】を押している間左側の音色ボタンのランプが点灯します。)

5 スプリットモードを抜ける

- スプリット【SPLIT】を押します。
 ⇨ ランプが消灯します。

スプリットとデュアル...

スプリットとデュアル(P23)を同時に使うことはできません。

スプリットポイントの鍵盤は左側に含まれます。

スプリットのときの

【VARIATION】...
 音色ごとに ^{パリエーション} 【VARIATION】のON/OFFが設定できます。
 通常の状態では、パネルの音色ボタンは右側の音色の状態を示します。(右側の音色に選ばれている音色ボタンのランプが点灯し、^{パリエーション} 【VARIATION】がONのとき、そのランプが点灯します。)
 【SPLIT】を押している間は、パネルの音色ボタンは左側の状態を示します。(左側の音色に選ばれている音色ボタンのランプが点灯し、^{パリエーション} 【VARIATION】がONのとき、そのランプが点灯します。)

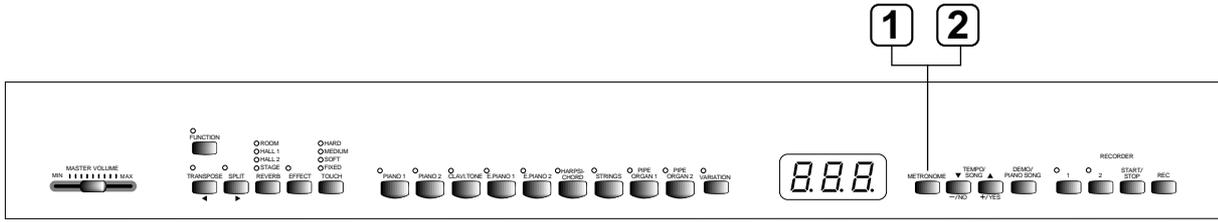
スプリットポイントは「ファンクションF4 (P36)」でも設定できます。

スプリットのときの【EFFECT】...

基本の設定(^{オン/オフ} ON/OFFと深さ)が音色の組み合わせごとに自動的に選ばれます。
 スプリットモードに入ったあとで ^{エフェクト} 【EFFECT】のON/OFFを切り換えた場合は、両音色共切り替わりません。
 スプリットモードでのエフェクトの深さは「ファンクションF4 (P36)」で音色ごとに任意に設定することもできます。

【METRONOME】を使う

CLP-555は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。お使いください。



操作

1 メトロノームを鳴らす

メトロノーム
【METRONOME】を押します。
⇒ メトロノームが鳴り出します。



メトロノームが鳴っている間、テンポに合わせて点滅します。

テンポの調節

テンポ ソング
TEMPO/SONG【 X 】を押すとテンポの値(32~280、基本設定=120)が変わります。

メトロノーム音量の調節

メトロノーム
【METRONOME】を押している間はディスプレイにメトロノーム音量の値が表示されます。
メトロノーム
【METRONOME】を押したまま【 - /NO】または【 + /YES】を押すと、値(1~20、基本設定=10)が変わります。



メトロノーム音量

メトロノームの音量は...
「ファンクションF5 (P37)」でも設定できます。また、ここで拍子も設定できます。

2 メトロノームを止める

メトロノーム
【METRONOME】を押します。
⇒ メトロノームが止まります。

演奏の録音(記録)

CLP-555の録音機能を使って、ご自分の演奏を録音する方法を説明します。

CLP-555で録音できる様式と特長は、下記のとおりです。

- ・ 録音後、音色やテンポ、効果などを変更できます。
- ・ 録音後、再生させながら演奏することができます。
- ・ 2つのパートをそれぞれ1トラックと2トラックに録音できます。

「録音」と「記録」...

カセットテープに録音するのとCLP-555のメモリーに録音(記録)するのでは、録音されるデータの形式が異なります。

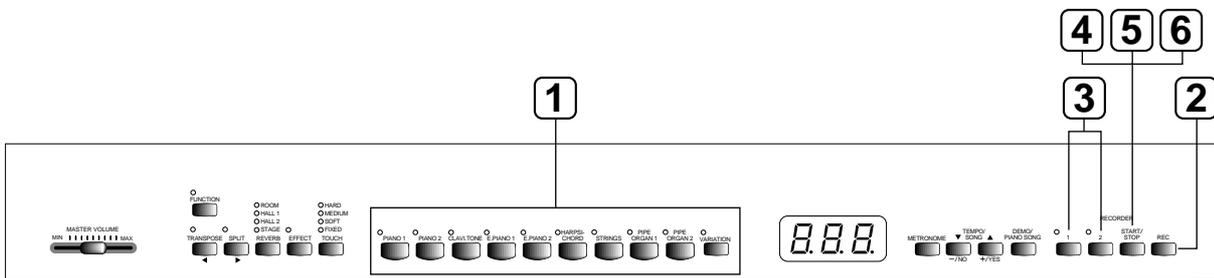
カセットテープでは音そのものが「録音」されますが、CLP-555のメモリーでは音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いた。音色はこれで、テンポはいくつで...」という情報が「記録」されます。再生の際は記録された情報どおりに、「音源」部が鳴ります。

CLP-555のメモリーでは、本来「記録」というべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。

メモリーとは...

録音データやいろいろな設定が記録されるCLP-555本体内部の記録装置のことです。

録音の手順(1つのトラックへの録音)



操作

ノート 録音済みの曲に再録音すると...

再録音するトラックの録音済みデータは消えてしまいますのでご注意ください。

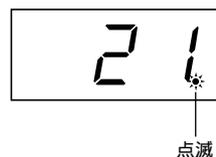
1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定(テンポ、リバーブなど)も選んでください。

2 録音モードに入る

レコード
【REC】を押します。

⇒ トラックボタン【1】または【2】のランプが赤く点灯します。ディスプレイにCLP-555の記憶残容量の数値(KBの数値)が表示されます。また、右端の点「。」が現在のテンポのタイミングで点滅します。



点滅

録音を中止する場合は、もう1度レコード
【REC】を押します。

デモ曲/ピアノ曲モードのときは...
録音モードに入ることはできません。

記憶残容量とは...

CLP-555に録音できるスペースがあとどれだけ残っているかを示す値です。データの量を表す単位KB(キロバイト)で示されます。何も録音されていない場合で、21KB(およそ4,200音符分)となります。

メトロノームを使う...

メトロノーム
【METRONOME】を使って録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

3 録音トラックを選ぶ

CLP-555は、2つのパートをそれぞれ1トラックと2トラックに録音できます。

【1】または【2】で録音するトラックを選びます。

⇒ ランプが赤く点灯します。

4 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音がスタートします。または、【^{スタート}START/^{ストップ}STOP】を押すと録音がスタートします。

⇒ ディスプレイに録音中の小節番号がリアルタイムで表示されます。



左のペダルを使ってスタートする...

「ファンクションF6 (P37)で左のペダルをパネルの【^{スタート/ストップ}START/STOP】と同じ機能に切り替えることができます。そうすると、左のペダルで録音をスタートすることができます。

5 録音をストップする

【^{スタート}START/^{ストップ}STOP】または【^{レコード}REC】を押します。

⇒ 録音したトラックのランプが緑に点灯します。(録音モードは自動的に解除されます。)

録音中にメモリーの記憶残容量が少なくなってきた場合...

録音中のトラックのランプが赤く点滅しだします。そして0になると画面に「FUL」のメッセージが出て録音が自動的にストップします。(それまでの演奏データは記録されます。)

6 録音した演奏を聞いてみる

【^{スタート}START/^{ストップ}STOP】を押すと、今録音した演奏が再生されます。もう一度【^{スタート}START/^{ストップ}STOP】を押すと、再生が止まります。

トラックのデータの削除...

【^{スタート/ストップ}START/STOP】で録音をスタートし、何もせず【^{スタート/ストップ}START/STOP】で録音をストップすると、そのトラックのデータがすべて削除されます。

録音し直す場合

録音した演奏がうまくいかなかった場合など、もう一度録音し直したい場合の手順を説明します。

1 必要に応じて、録音する音色(とそのほかの設定)を選び直す

先に録音したときと設定を変えたい場合に行ってください。

2 再び録音モードに入る

再び【^{レコード}REC】を押します。

⇒ 今録音したトラックが自動的に録音トラックとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。

これ以降、上記「4」以降の手順に従って録音します。

■ 続いて2つめのトラックへ録音する場合

続いて2つめのトラックに録音する場合の手順を説明します。

1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定も選んでください。

2 再び録音モードに入る

再び【REC】を押します。

↳ 今録音したトラックが自動的に録音トラックとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。

3 録音トラックを選ぶ

今録音したトラックと違う方のトラックを選びます。

↳ ランプが赤く点灯します。(今録音したトラックのランプは緑に点灯します。)

今録音したトラックのデータを再生させながら録音することができます。

これ以降、前記「4」以降の手順(P27)に従って録音します。

今録音したトラックのデータの再生をOFFにして録音するには...
再び録音モードに入る前に、今録音したトラックのボタンを押します。
緑のランプが消灯します。

■ 録音(記録)されるデータの種類の種類

実際には、弾いた音や音色のほかにも録音(記録)されるデータがあります。以下にそれを示します。

CLP-555では、下記のように「トラックごとに録音されるデータ」と「2つのトラックで共通に録音されるデータ」があります。

【以下は、トラックごとに録音されます】

- ・ ノートデータ(弾いた音)
初期値としては記録されません。
- ・ 音色
- ・ ダンパーペダルのON/OFF
- ・ ソステヌートペダルのON/OFF
初期値としては記録されません。
- ・ ソフトペダルのON/OFF
- ・ 【VARIATION】のON/OFF
- ・ 【EFFECT】の深さ
- ・ デュアルの音色
- ・ 「ファンクションF3」でのデュアルの諸設定
録音途中での変更、初期値の変更(次項参照)はできません。
- ・ スプリットの音色
- ・ 「ファンクションF4」でのスプリットの諸設定
録音途中での変更、初期値の変更(次項参照)はできません。

初期値とは...
曲の先頭に記録されるデータです。

【以下は、2つのトラックで共通に録音されます】

- ・ テンポ
- ・ 【REVERB】の種類と深さ
- ・ 【EFFECT】のON/OFF

■ 初期値の変更

録音を終えたあとでも、曲の初期値を変更することができます。変更できるデータは前記「録音(記録)されるデータの種類」のリストをご参照ください。

- 1 録音モードに入り、初期値を変更するトラックを選びます。
↳ ランプが赤く点灯します。2つのトラックで共通に録音されるデータは、どちらのトラックを選んで変更されます。)
- 2 パネルを操作して初期値を変更します。
ここで鍵盤や【START/STOP】^{スタート} ^{ストップ}を押さないようご注意ください。録音が始まってしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。
- 3 【REC】^{レコード}を押して録音モードを抜けます。
ここで【START/STOP】^{スタート} ^{ストップ}を押さないようご注意ください。録音が始まってしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

たとえば録音した【E. PIANO 1】^{エレクトリックピアノ1}の音色を【E. PIANO 2】^{エレクトリックピアノ2}に変更する場合...

操作1のあと、操作2で【E. PIANO 2】^{エレクトリックピアノ2}を押し、操作3の【REC】^{レコード}を押して完了です。

初期値変更の中止...

操作2のあと、初期値を変更するトラックを変えて、何もしないで操作3で録音モードを抜けると初期値変更は中止されます(2つのトラックで共通に録音されるデータの変更も中止されます。)

■ 録音上の注意

- ・ 録音した曲は、電源OFF^{オフ}後約1週間記憶され続けます。(ただし、次回電源を入れたときは、録音した曲があってもトラックボタンのランプは自動的に緑に点灯しませんので、再生させる場合はトラックボタンを押して緑に点灯させてください。)1週間以上続けて記憶させる場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をON^{オン}にしてください。また、CLP-555にディスクオーケストラユニット DOU-10などを接続して演奏データを送信し、曲をディスクに保存しておくこともできます。(「録音データのバルク送信」(P39))
- ・ 録音する際、レコードモードに入る前にあらかじめトラックボタンを押してみて緑に点灯するかどうか確認すると安心です。緑に点灯する場合は、そのトラックに録音済みのデータがあり、再録音すると、そのトラックの録音済みデータは消えてしまいますのでご注意ください。

録音した曲の再生

CLP-555の録音機能(P26~29)を使って録音した曲を再生します。

曲の再生データは、MIDI送信されません。

再生の基本手順



操作

1 再生スタート

スタート ストップ
【START/STOP】を押すと再生がスタートします。
⇒ ディスプレイにはスタート後、再生中の小節番号が表示されます。



- 再生しながら、演奏することもできます。この場合、再生音色と手弾き音色は連動しません。再生音色は録音された音色で鳴り、手弾き音色は選ばれているパネル音色で鳴ります。

音量の調節

マスターボリューム
【MASTER VOLUME】で音量を調節します。

テンポの調節

テンポ/ソング
再生スタート前または再生中に、【TEMPO/SONG】**【 X 】**を押してテンポを変更できます。【 X 】を同時に押すと録音された曲に設定されているテンポに戻ります。

2 再生ストップ

曲が終わると、自動的に再生が終了します。再生の途中でストップする場合は、スタート ストップ【START/STOP】を押します。

デモ曲/ピアノ曲モード、ファンクションモードのときは...再生できません。ただし、ファンクションモードのときトラックボタン【1】または【2】を押すと、再生できる状態になります。

録音データがないときはスタート ストップ【START/STOP】を押しても再生はスタートしません。

「連弾や2台のピアノのための曲の片パートを録音し、それを再生しながら自分でもう1つのパートを弾く」という方法で、1人でアンサンブルを楽しむこともできます。

再生といっしょに外ロノームを使うこともできます。この場合、再生ストップすると、外ロノームも同時に止まります。

再生に関する便利な機能

トラックの再生オン/オフON/OFF

録音したデータが入っているトラックボタン【1】【2】の片方または両方のランプが緑に点灯します。

ランプが点灯しているトラックのボタンを押すと、ランプが消灯し、そのトラックのデータが再生されなくなります。ボタンを押すごとに再生のオン/オフON/OFFが切り替わります。

トラックの再生オン/オフON/OFFの切り替えは...

再生前でも再生中でもできます。両トラックとも再生オフOFFにした場合は、再生スタートできません。(または、再生がストップします。)

再生をオフOFFにしたパートの音量は...

録音した曲の再生の場合は、再生をオフOFFにしたトラックの音量は0ゼロに固定です。

弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。

再生ONのトラックのボタン(【1】または【2】)を押したまま【START/STOP】を押すとシンクロスタート待機状態になります。

□> ディスプレイの右端の点「。」が現在のテンポのタイミングで点滅します。



点滅

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。
再生しながら自分も弾くときに便利です。

左のペダルでスタート/ストップする

左のペダルでスタート/ストップすることができます。

「ファンクションF6」(P37)で左のペダルの機能をスタート/ストップ(パネルの【START/STOP】と同じ機能)に切り替えます。

自分が先に弾き出して、途中から再生パートをスタートさせたいときに便利です。

再生OFFのトラックのボタンを押したまま【START/STOP】を押すと...

そのトラックの再生がONになると共に、シンクロスタート待機状態になります。

シンクロ = 同時の、同時に起こる

ファンクション

CLP-555をお使いいただく上での各種の設定を、基本設定(工場出荷時の設定)以外のご自分の使いやすい設定に変更する機能です。

そのほかに、各種の便利な機能や応用的な機能が、ファンクションの中にまとめられています。

まず、ファンクションの各項目を概観してください。

ファンクションには、大項目が9個(F1~F9)あります。

大項目の中には、小項目をいくつか持つものもあります。

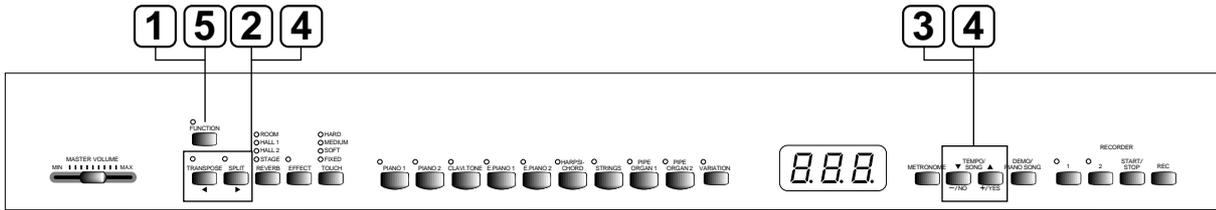
ファンクション一覧表

大項目		小項目		ページ
F1.	音程の微調整	-	-	34
F2.	音律(調律法)の選択	-	-	34
F3.y	デュアルの諸設定	F3.1	2音色の音量バランスの設定	35
		F3.2	2音色の音程を微妙にずらす設定	35
		F3.3	第1音色のオクターブシフトの設定	35
		F3.4	第2音色のオクターブシフトの設定	35
		F3.5	第1音色のエフェクトの深さの設定	35
		F3.6	第2音色のエフェクトの深さの設定	35
		F3.7	ストリングスのスローアタックの設定	36
		F3.8	基本設定に戻す操作	36
F4.y	スプリットの諸設定	F4.1	スプリットポイントの設定	36
		F4.2	2音色の音量バランスの設定	36
		F4.3	右側音色のオクターブシフトの設定	36
		F4.4	左側音色のオクターブシフトの設定	36
		F4.5	右側音色のエフェクトの深さの設定	36
		F4.6	左側音色のエフェクトの深さの設定	36
		F4.7	ダンパーペダルの有効域の設定	36
		F4.8	基本設定に戻す操作	36
F5.y	メトロノームの諸設定	F5.1	拍子の設定	37
		F5.2	メトロノーム音量の設定	37
F6.	左ペダル機能の設定	-	-	37
F7.	ピアノ30曲のパート再生 OFF時の音量設定	-	-	37
F8.y	MIDI機能の諸設定	F8.1	MIDI送信チャンネルの設定	37
		F8.2	MIDI受信チャンネルの設定	37
		F8.3	ローカルコントロールON/OFFの設定	38
		F8.4	プログラムチェンジ送受信ON/OFFの設定	38
		F8.5	コントロールチェンジ送受信ON/OFFの設定	38
		F8.6	MIDI送信データにトランスポーズをかける設定	38
		F8.7	セットアップデータのMIDI送信	38
		F8.8	録音データのバルク送信	39
F9.y	バックアップ ON/OFFの設定	F9.1	音色関連項目のバックアップ設定	39
		F9.2	MIDI関連項目のバックアップ設定	39
		F9.3	音程、音律関連項目のバックアップ設定	39
		F9.4	左ペダル機能のバックアップ設定	39

ファンクションでの基本操作

ファンクションの各項目は以下の手順で操作します。

(ファンクションの各項目の説明で、操作がわからなくなった場合はここに戻ってご覧ください。)



操作

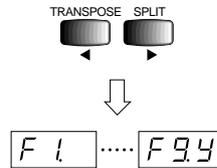
1 ファンクションモードに入る

ファンクション
【FUNCTION】を押します。

⇒ ランプが点灯し、ファンクションモードのディスプレイ **F**** になります。

2 大項目を選ぶ

【・】ボタン下の印刷)でファンクションの大項目(F1~F9)を選びます。



3 ディスプレイ右横の【-/NO】【+/YES】ボタン下の印刷)で...

小項目がない場合：直接設定の操作に入ります。

小項目がある場合：【+/YES】で小項目を選択する操作に進みます。

4 これ以降の2種類のボタンを使って操作します。

【・】

大項目または小項目の選択に使用します。

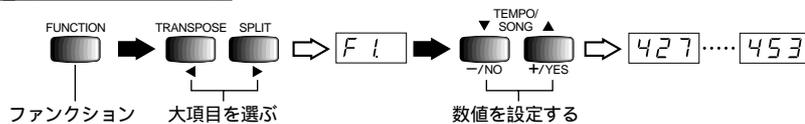
【-/NO】【+/YES】(ディスプレイ右横のボタン)

大項目または小項目を選んだあと、ON/OFFの設定、種類の設定、数値の設定をします。

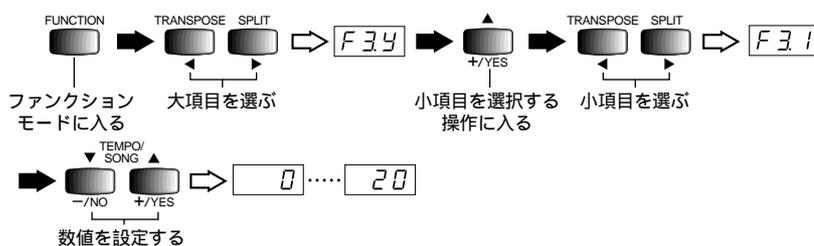
【-/NO】【+/YES】を同時に押しと基本設定(工場出荷時の設定)に戻ります。

ノート 項目を選んだあと、最初に【-/NO】【+/YES】を押したときは、現在の設定状態(設定値)が表示されます。

操作例1(F1「音程の微調整」)



操作例2(F3.1「デュアルの2音色の音量バランスの設定」)



5 操作が完了したら...

ファンクション
【FUNCTION】を押してファンクションモードから抜けます。

⇒ ランプが消灯し、ディスプレイがテンポ表示に戻ります。

デモ曲/ピアノ曲モードのときと、曲の再生中、録音中は... ファンクションモードに入ることはできません。

ファンクションモードのときは... 曲の再生はできません。ただし、トラックボタン【1】または【2】を押すと、再生できる状態になります。

各ファンクション項目の説明

F1. 音程の微調整

楽器全体の音程を微調整する機能です。合奏のときなど、ほかの楽器と音程を正確に合わせたいときなどに使用します。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F1** を選びます。

2 **【- /NO】** **【+ /YES】** で、A3の鍵盤の音程を^{ヘルツ}Hzの数値で設定します(約0.2Hz単位)

⇒ **427** ... **440** ... **453**

小数点以下の数値は、下記のような点「.」で示されます。

表示	値
440	440.0
440	440.2
440	440.4
440	440.6
440	440.8

設定範囲: 427.0 ~ 453.0 (Hz)

基本設定: 440.0 (Hz)

・^{ヘルツ}Hzとは...

音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位が^{ヘルツ}Hzです。)

【ノート】 別の設定方法もあります...(ファンクションモードでないときに操作できます。)

音程を上げる(約0.2Hz単位)...

A-1とB-1(左端の白鍵2つ)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す

音程を下げる(約0.2Hz単位)...

A-1とA#-1(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す

基本設定に戻す...

A-1とA#-1とB-1(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す

【ノート】 約1Hz単位で設定する方法もあります...(ファンクションモードでないときに操作できます。)

約1Hz単位で音程を上下させる...

「A-1とB-1」または「A-1とA#-1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、**【- /NO】** **【+ /YES】** を押す

基本設定に戻す...

「A-1とB-1」または「A-1とA#-1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、**【- /NO】** **【+ /YES】** を同時に押す

(上記操作中、ディスプレイが^{ヘルツ}Hz表示 **427** ... **453**)
に切り換わります。操作後元のディスプレイに戻ります。)

F2. 音律(調律法)の選択

音律(調律法)を選ぶ機能です。

現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共に様々な音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。

当時の調律法で演奏することでその曲が誕生した時の響きを味わうことができます。

次の7種類の音律(調律法)が用意されています。

^{イコールテンペラメント}
平均律(Equal Temperament)

1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。

^{ピュアテンペラメント} ^{メジャー}
純正律(長調)(Pure Temperament Major)

^{ピュアテンペラメント} ^{マイナー}
純正律(短調)(Pure Temperament minor)

自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどで見られます。

^{ピタゴリアンテンペラメント}
ピタゴラス音律(Pythagorean Temperament)

ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

^{ミントーンテンペラメント}
中全音律(Meantone Temperament)

ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。

十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

^{ヴェルクマイスター}
ヴェルクマイスター音律(Werckmeister)

^{キルンベルガー}
キルンベルガー音律(Kirnberger)

中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。

バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハープスコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F2** を選びます。

2 **【- /NO】**^ノ**【+ /YES】**^{イエス}で音律(調律法)の種類を選びます。

⇒ **1** **F2** ...

- 選択範囲: 1..... 平均律
2..... 純正律(長調)
3..... 純正律(短調)
4..... ピタゴラス音律
5..... 中全音律
6..... ヴェルクマイスター音律
7..... キルンベルガー音律

基本設定: 1..... 平均律

3 平均律以外のときは、基音(演奏する曲の調の主音)を、鍵盤を押して設定する必要があります。設定した基音の調に対して各音律の効果が得られます。

⇒ **F2** **Fd-** ...

設定範囲: C, D^b, D, E, E^b, F, F[#], G, A^b, A, B^b, B

基本設定: C

・ 基音表示の例

F# **F** **A^b**
(F[#]) (G) (A^b)

シャープのとき
上に“-”

フラットのとき
下に“-”

ノ 選択した音律は、この **F2** を抜けてから有効になります。

F3. デュアルの諸設定

デュアルモードでの各種設定をします。

1 デュアルモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目 **F34** を選びます。

2 **【+ /YES】**^{イエス}を押して確定し、**【・ /X】**で以下の小項目を選び、**【- /NO】**^ノ**【+ /YES】**^{イエス}で設定します。

ノ デュアルモードでないときは...

1での表示が **F3-** になり、**【+ /YES】**^{イエス}を押しても反応しません。

ファンクションモードに入ったあとで、デュアルモードに入ることもできます。

小項目

F31 2音色の音量バランスの設定

設定範囲: 0~20(20に近づくほど第1音色の音量が大きくなる、10で同音量)

基本設定: 音色の組み合わせごと

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く混ぜるなど、2音色の音量バランスを工夫してみてください。

F32 2音色の音程を微妙にずらす設定

設定範囲: -10~0~+10(+方向で第1音色の音程が高くなる、-方向で第2音色の音程が高くなる。)

基本設定: 音色の組み合わせごと

2音色の音程を微妙にずらすと音に厚みが出ます。

F33 第1音色のオクターブシフトの設定

F34 第2音色のオクターブシフトの設定

設定範囲: -1, 0, +1

基本設定: 音色の組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

F35 第1音色のエフェクトの深さの設定

F36 第2音色のエフェクトの深さの設定

設定範囲: 0~20

基本設定: 音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを第1音色と第2音色別々に設定します。

エフェクトがOFFのときは設定できません。(ファンクションモードに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)

・ 「第1音色」「第2音色」については、P23をご覧ください。

F37 スtringスのスローアタックの設定

設定範囲: ON/OFF(ONで遅くなる)

基本設定: OFF

片方の音色にStringsを選んだ場合の、Stringsのアタック(音の立ち上がり)の速さを切り替えます。曲によりONにすると雰囲気が出ます。

F38 基本設定に戻す操作

【+/YES】を押すと上記すべての設定が、その音色の組み合わせを持つ基本設定に戻ります。

ノート ショートカット操作...

デュアルの2つの音色ボタンを押したまま【FUNCTION】を押すと直接ファンクションモードの[F3*]に入ることができます。

この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作(【FUNCTION】を押す⇨ランプ消灯)が必要です。

F4. スプリットの諸設定

スプリットモードでの各種設定をします。

1 スプリットモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目[F4]を選びます。

2 【+/YES】を押して確定し、【・】で以下の小項目を選び、【-/NO】【+/YES】で設定します。

ノート スプリットモードでないときは...

1での表示が[F4-]になり、【+/YES】を押しても反応しません。

ファンクションモードに入ってからではスプリットモードに入ることができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからスプリットモードに入ってください。

小項目

F41 スプリットポイントの設定

設定範囲: 全鍵盤

基本設定: F#2

左鍵域と右鍵域の境め(スプリットポイント)にする鍵盤を指定します。スプリットポイントの鍵盤自体は左鍵域に含まれません。

- ・【-/NO】【+/YES】の代わりに、スプリットポイントにした鍵盤を押しても設定できます。
- ・ファンクションモードでないとき、【SPLIT】を押しながら鍵盤を押しても設定できます。(P24)

・スプリットポイントの鍵盤名表示の例

F#2	G2	A#2
(F#2)	(G2)	(A#2)

シャープのとき 上に“-”	フラットのとき 下に“-”
------------------	------------------

F42 2音色の音量バランスの設定

設定範囲: 0~20(20に近づくほど右側音色の音量が大きくなる、10で同音量)

基本設定: 音色の組み合わせごと

組み合わせる音色により、2音色の音量バランスを好みの状態に設定します。

F43 右側音色のオクターブシフトの設定

F44 左側音色のオクターブシフトの設定

設定範囲: -1, 0, +1

基本設定: 音色の組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。右側音色と左側音色別々に設定できます。弾く曲の音域などに応じて選んでください。

F45 右側音色のエフェクトの深さの設定

F46 左側音色のエフェクトの深さの設定

設定範囲: 0~20

基本設定: 音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを右側音色と左側音色別々に設定します。エフェクトがOFFのときは設定できません。(ファンクションモードに入ってからではエフェクトのON/OFFを選ぶことができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)

F47 ダンパーペダルの有効域の設定

設定範囲: ALL(両音色) 1(右側の音色) 2(左側の音色)

基本設定: ALL

ダンパーペダル効果を両音色にかけるか(ALL) 右側音色にだけかけるか(1) 左側音色にだけかけるか(2)を設定します。

F48 基本設定に戻す操作

【+/YES】を押すと上記すべての設定がその音色の基本設定に戻ります。

ノート ショートカット操作...

【SPLIT】を押したまま【FUNCTION】を押すと直接ファンクションモードの[F4*]に入ることができます。

この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作(【FUNCTION】を押す⇨ランプ消灯)が必要です。

F5. メトロノームの諸設定

メトロノームの拍子と音量を設定します。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F5.4** を選びます。

2 **【+/YES^{イエス}】**を押して確定し、**【・】**で以下の小項目を選び、**【-/NO^{ノー}】****【+/YES^{イエス}】**で設定します。

小項目

F5.1 拍子の設定

設定範囲: 0 (無拍子) 2 (拍子) 3 (拍子) 4 (拍子)
5 (拍子) 6 (拍子)

基本設定: 0 (無拍子)

F5.2 メトロノーム音量の設定

設定範囲: 1~20

基本設定: 10

ノート メトロノーム音量の別の設定方法もあります...

(ファンクションモードでないときに操作できます。)

【METRONOME^{メトロノーム}】を押したまま**【-/NO^{ノー}】****【+/YES^{イエス}】**を押します。

ノート ショートカット操作...

【METRONOME^{メトロノーム}】を押したまま**【FUNCTION^{ファンクション}】**を押すと、直接ファンクションモードの**F5.***に入ることができます。

この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作**【FUNCTION^{ファンクション}】**を押す⇒ランプ消灯が必要です。

F6. 左ペダル機能の設定

左のペダルの機能を設定します。基本設定ではソフトペダルとして機能しますが、ここで、スタート/ストップ機能(パネルの**【START/STOP^{スタート/ストップ}】**と同じ機能)に切り替えることができます。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F6** を選びます。

2 **【-/NO^{ノー}】****【+/YES^{イエス}】**で設定します。

選択範囲: 1(ソフトペダル) 2(スタート/ストップ)

基本設定: 1(ソフトペダル)

F7. ピアノ30曲のパート再生OFF時の音量設定

CLP-555に入っているピアノ30曲の再生時、再生をOFFにしたパートの音量を設定します。ガイドとして小さく鳴らしたい場合と、まったく音を鳴らしたくない場合とに応じて、音量を調節してください。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F7** を選びます。

2 **【-/NO^{ノー}】****【+/YES^{イエス}】**で設定します。

選択範囲: 0~20

基本設定: 5

F8. MIDI機能の諸設定

MIDIに関する各種設定 / 操作をします。MIDIについての基礎的な解説が「MIDIについて」(P48)にあります。ご参照ください。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F8.4** を選びます。

2 **【+/YES^{イエス}】**を押して確定し、**【・】**で以下の小項目を選び、**【-/NO^{ノー}】****【+/YES^{イエス}】**で設定します。

小項目

F8.1 MIDI送信チャンネルの設定

MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでCLP-555からMIDIデータを送信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: 1~16, OFF (送信しない)

基本設定: 1

- デュアルのときの第2音色、スプリットのときの左側音色は... 2チャンネルに固定です。ただし、上記設定チャンネルをOFFに設定した場合は送信されません。
- デモ曲/ピアノ30曲の再生データ、録音した曲の再生データはMIDI送信されません。

F8.2 MIDI受信チャンネルの設定

MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでCLP-555がMIDIデータを受信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: ALL, 1&2, 1~16

基本設定: ALL

オールの場合...

「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部MIDI機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時にチャンネルごとに独立して受信します。

この状態で、シーケンサーなどから送信される複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、CLP-555で受信して再生させることができます。

「1 & 2」の場合は...

シーケンサーなどの外部MIDI機器から1、2チャンネルのデータだけ受信し、CLP-555本体で再生することができます。

- CLP-555では、CLP-555本体のパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ(音色切り換え)などのチャンネルメッセージから影響を受けません。
- デモ曲/ピアノ曲モード中は、MIDI受信を行いません。

F B 3 ローカルコントロールON/OFFの設定

通常、CLP-555の鍵盤を弾くと本体内部の「音源部」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールON」と呼ばれます。「ローカルコントロールをOFF」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもCLP-555からは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏情報はMIDI送信されますので、CLP-555では音を鳴らさずにMIDI接続した外部の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールをOFFにします。

選択範囲: オン/オフ
基本設定: オン

F B 4 プログラムチェンジ送受信ON/OFFの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器の音色を切り換える情報をプログラムチェンジと言います。

たとえばCLP-555からプログラムチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の音色を切り換えることができます。

(CLP-555のパネル上で音色を切り換えたときに、切り換えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。逆にMIDI接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジをCLP-555が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データの音色が切り換わります。(このとき鍵盤での手弾き音色は切り換わりません。))

このプログラムチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合(=MIDI接続した外部機器と音色切換を連動させたい場合)と、できないほうが便利な場合(=MIDI接続した外部機器と音色切換を連動させたくない場合)があります。音色切換を連動させたい場合はOnに、連動させたくない場合は、OFFにします。

CLP-555のプログラムチェンジナンバーは...

XG音色配列に準拠しています。各音色のプログラムチェンジナンバーについては「MIDIデータフォーマット」のP52をご覧ください。

選択範囲: オン/オフ
基本設定: オン

F B 5 コントロールチェンジ送受信ON/OFFの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器にダンパーペダルの操作やエフェクト、ボリュームなどの演奏表現を伝える情報をコントロールチェンジと言います。

たとえばCLP-555からコントロールチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(CLP-555でダンパーペダルを操作をしたときなどにコントロールチェンジが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたコントロールチェンジをCLP-555が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データがそれに反応します。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません。)

このコントロールチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合があります。送/受信ができたほうが便利な場合はOnに、できないほうが便利な場合は、OFFにします。

- CLP-555がコントロールチェンジとして扱える情報...
「MIDIデータフォーマット」のP52をご覧ください。

選択範囲: オン/オフ
基本設定: オン

F B 6 MIDI送信データにトランスポーズをかける設定

MIDI送信データにトランスポーズをかける設定です。(本体のトランスポーズの設定とは連動しません。)

選択範囲: -12~0~12(半音単位)
基本設定: 0

F B 7 セットアップデータのMIDI送信

CLP-555のパネル設定状態のセットアップデータをMIDI接続したディスクオーケストラユニットDOU-10やシーケンサーなどに送信します。

DOU-10や外部シーケンサーに演奏データを録音する際、演奏データの頭に、録音データを再生しながら自分で演奏するためのセットアップデータを送信して記録しておく、再生しながらの演奏の際、便利です。

- セットアップデータとは...
CLP-555のパネル設定状態一式のデータです。

操作

送信するパネル設定を作ります。

- ▶ シーケンサーなどとMIDI接続し、シーケンサー側のセットアップデータ受信準備を整えます。
- ▶ ファンクションモードに入って「F B 7」を選びます。
- ▶ 【+/YES】を押すと送信が実行されます。
- ▶ End

- ・送信される「セットアップデータ」の内容...
「MIDIデータフォーマット」のP53(パネルデータ詳細)に掲載されている内容が送信されます。
- ・送信したデータの受信方法...
データを送信した機器とCLP-555をMIDI接続します。
 - ▶ データを送信した機器側で送信操作をします。
 - > 自動的にCLP-555がそのデータを受信し、パネルの設定状態に反映されます。
(送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。たとえばCLP-555から送信したセットアップデータは、CLP-555で受信することができますが、CLP-411で受信することはできません。)
- ・セットアップデータMIDI送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書もご覧ください。

F88 録音データのバルク送信

ディスクオーケストラユニットDOU-10やシーケンサーなどをCLP-555に接続し、CLP-555で録音したデータをMIDIのバルクデータとして送信し、ディスクに保存しておくことができます。

保存しておいた録音データを再生する場合は、送信した機器からCLP-555本体にバルクデータを送り戻した上で、通常の再生操作で再生します。

- ・バルクデータとは...
MIDIで、データの種類を表す用語で「データのかたまり」といった意味です。

操作

CLP-555で演奏を録音します。

- ▶ ディスクオーケストラユニットDOU-10などとMIDI接続し、DOU-10などの側のバルクデータ受信準備を整えます。
- ▶ ファンクションモードに入って **F88** を選びます。
- ▶ **【+/YES】** を押すと送信が実行されます。
- > **End**

- ・録音モードのときと再生中は...
バルクデータ送信はできません。
- ・バルクデータ送信中は...
手弾き音のデータ及びパネル情報はMIDI送信されません。また、MIDI受信を行いません。
- ・送信したデータの受信(送り戻し)方法...
データを送信した機器とCLP-555をMIDI接続します。
 - ▶ データを送信した機器側で送信操作をします。
 - > 自動的にCLP-555がそのデータを受信し、本体のメモリーにデータが入ります。
このあと、通常の再生操作で再生できます。
(送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。たとえばCLP-555から送信したバルクデータは、CLP-555で受信することができますが、CLP-411で受信することはできません。)
- ・ファンクションモードのとき、および録音モードのときと再生中は...
バルクデータ受信はできません。
- ・バルクデータ送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書もご覧ください。

F9. バックアップON/OFFの設定

・バックアップとは...

メモリー(CLP-555本体内部の記憶装置)に記憶されている内容を電源を切っても消えずに残しておくことを言います。バックアップをONにしておくと、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。
バックアップをOFFにしておくと、電源をOFFにした時点でメモリーの内容は消され、次回電源を入れたときには基本設定(=工場出荷時の設定)に戻ります。(基本設定一覧表がP51に掲載されています。)

- ・バックアップの設定をONにしても、電源を切って約1週間以上過ぎると、バックアップされている内容が消え、すべての設定内容が基本設定(=工場出荷時の設定)に戻ってしまいます。したがって、バックアップされている内容を1週間以上保持したい場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。

機能グループごと(以下の小項目ごと)にバックアップのON/OFFを設定します。

- 1 ファンクションモードに入り、大項目 **F99** を選びます。

- 2 **【+/YES】** を押して確定し、**【・】** で以下の小項目を選び、**【-/NO】** **【+/YES】** で設定します。

小項目

F99.1 音色関連項目のバックアップ設定

F99.2 MIDI関連項目のバックアップ設定

F99.3 音程、音律関連項目のバックアップ設定

F99.4 左ペダル機能のバックアップ設定

設定範囲: On/OFF

基本設定: OFF(すべてのグループ)

ただし「メモリーに録音された演奏データ」ここでの「バックアップON/OFFの設定」自体は常にバックアップされます。

・各小項目の内容

F9.1 音色関連項目のバックアップ設定

- ・ 音色選択
- ・ デュアルモードのON/OFFと音色
- ・ デュアルの諸設定(**F3**) の設定内容 (音色ごと)
- ・ スプリットモードのON/OFFと音色
- ・ スプリットの諸設定(**F4**) の設定内容 (音色ごと)
- ・ リバーブの種類と深さ
- ・ エフェクトのON/OFFと深さ (音色ごと)
- ・ バリエーションのON/OFF (音色ごと)
- ・ タッチの設定
- ・ メトロノームの諸設定(**F5**) の設定内容)

F9.2 MIDI関連項目のバックアップ設定

MIDI機能の諸設定(**F6**) の設定内容)
(**F6.7** **F6.8** を除く)

F9.3 音程、音律関連項目のバックアップ設定

- ・ トランスポーズの設定
- ・ 音程の微調整(**F1**) の設定)
- ・ 音律(調律法)の選択(**F2**) の設定)

F9.4 左ペダル機能のバックアップ設定

- ・ 左ペダル機能の設定(**F5**) の設定)

基本設定(=工場出荷時の設定)に戻すには...

いったん電源をOFFにし、右端の鍵盤(C7)を押したまま電源をONにします。

...この操作でいつでも基本設定(=工場出荷時の設定)に戻すことができます。(ここでの「バックアップON/OFFの設定」も含めたすべての項目が基本設定に戻ります。また、本体のメモリーに録音された演奏データも消えます。(基本設定一覧表がP51に掲載されています。)

他の機器と接続する端子

【PHONES】端子

ヘッドフォンを【PHONES】端子(標準ステレオフォン端子)に接続して使います。

ヘッドフォンを接続するとクラビノーバのスピーカーからは音が出ません。

また、【PHONES】端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。

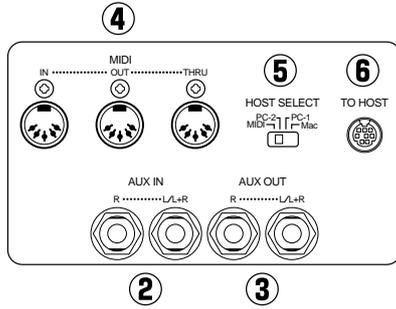


推奨ヘッドフォン...

YAMAHAヘッドフォン HPE-160

(税別価格: 5,500円)

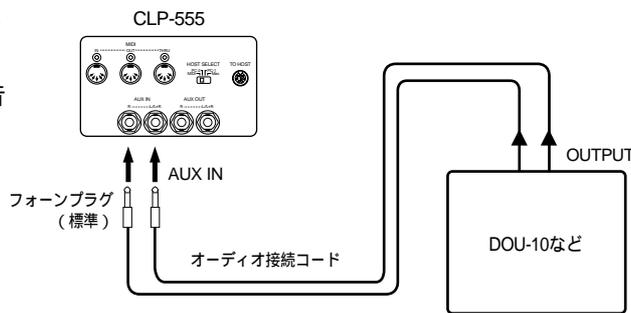
底面



AUX IN【R】L/L+R】端子

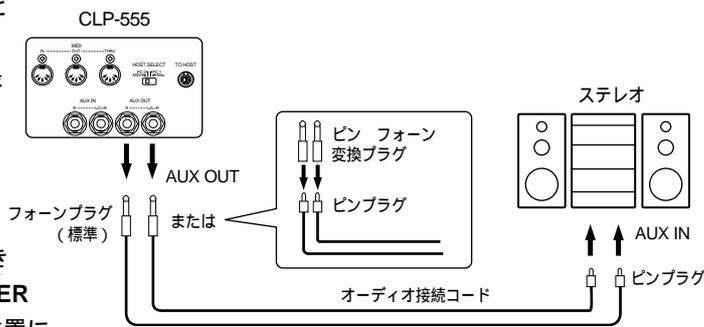
AUX OUT【R】L/L+R】端子

- **AUX IN【R】L/L+R】端子**
ディスクオーケストラユニット DOU-10などの外部機器の音をCLP-555本体のスピーカーで鳴らすことができます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。



- **AUX OUT【R】L/L+R】端子**

CLP-555をステレオなどに接続して、より大きな音を出したり、演奏を録音したりできます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。ステレオに接続したときは、CLP-555の【MASTER VOLUME】は中程の位置にして、ステレオ側で音量を調節してください。



MIDI【IN】OUT】THRU】端子

MIDI接続専用のケーブルを使って外部MIDI機器と接続します。MIDI端子を使う場合は、下記HOST SELECTスイッチを「MIDI」に設定してください。MIDIについての基礎的な解説を「MIDIについて」(P48)に掲載していますのでご参照ください。

HOST SELECTスイッチと【TO HOST】端子

【TO HOST】端子は...

パーソナルコンピューターに直接接続する端子です。

HOST SELECTスイッチは...

MIDI機器やパーソナルコンピューターを接続する場合に、機器やパーソナルコンピューターの種類に応じて切り換えるスイッチです。

詳しくは次項「パーソナルコンピューターとの接続」をご覧ください。

AUX OUT から出力した音を、AUX IN に戻さないでください。(AUX OUT から外部オーディオ機器に接続した場合、その機器から再びCLP-555のAUX IN に接続しないでください。)
CLP-555のAUX IN から入力された音はそのままCLP-555のAUX OUT から出力されますので、オーディオ系の発振が起こり、正常な再生がなされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。

オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

AUX IN からの入力音にはCLP-555本体の【MASTER VOLUME】や【REVERB】の設定は効きません。

■ パーソナルコンピューターとの接続

パーソナルコンピューター用の音楽ソフトを、CLP-555の【^{トゥーホスト}TO HOST】またはMIDI端子とパーソナルコンピューターをつないで楽しむことができます。

・ CLP-555を音源として使う場合、CLP-555にない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。

CLP-555とコンピューターを接続する場合、2つの方法があります。

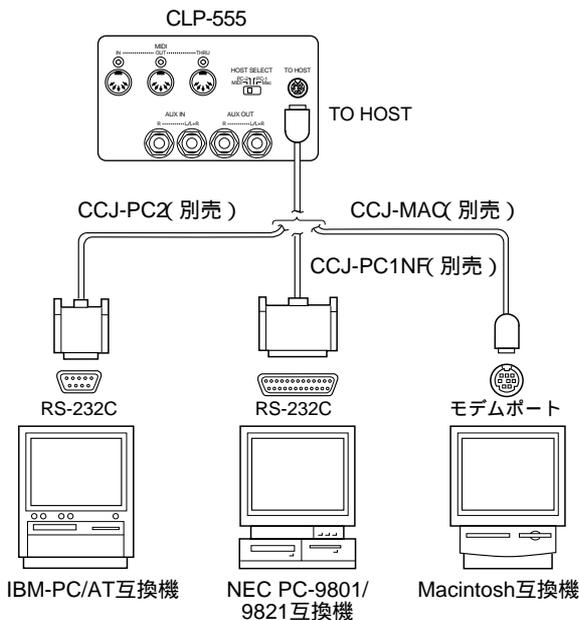
1. CLP-555の【^{トゥーホスト}TO HOST】端子を使った接続方法
2. CLP-555のMIDI端子を使った接続方法

1. CLP-555の【^{トゥーホスト}TO HOST】端子を使った接続方法

コンピューターのシリアルポート RS-232C端子やRS-422端子とCLP-555の【^{トゥーホスト}TO HOST】端子を接続します。この方法では、CLP-555をMIDIインターフェース機器として使用できるため、専用のMIDIインターフェース機器は不要です。

接続方法

コンピューターのシリアルポート RS-232C端子やRS-422端子を、専用のシリアルケーブルで、CLP-555の【^{トゥーホスト}TO HOST】端子に接続します。



Windows 3.1 / Windows 95をご使用のお客様へ
コンピューターのシリアルポートとCLP-555の【^{トゥーホスト}TO HOST】端子を接続して、データのやり取りをするためには、指定のMIDIドライバー（YAMAHA CBX-T3 Serial Driver [Windows 3.1対応] または YAMAHA CBX Driver [Windows 95対応]）をコンピューターにインストールする必要があります。
MIDIドライバーについては、巻末の「クラビノーバインフォメーションセンター」にお問い合わせください。
Windows 95対応のドライバーは、インターネットのヤマハホームページ（XGライブラリー <http://www.yamaha.co.jp/xg/L/tools/tooltop.html>）から、ダウンロードして直接入手することもできます。

接続するシリアルケーブルの種類

接続するコンピューターの種類に合わせて、下記のシリアルケーブルを使用してください。

- ・ Macintosh互換機：YAMAHA CCJ-Mac、または同等品
- ・ NEC PC-9801/9821互換機：
YAMAHA CCJ-PC1NF、または同等品
- ・ IBM-PC/AT互換機：YAMAHA CCJ-PC2、または同等品
- ・ パーソナルコンピューターによっては上記にあてはまらない場合もありますので、各シリアルケーブルの内部配線図（P44）とパーソナルコンピューターの端子形状によりご判断ください。

CLP-555リアパネルのHOST SELECTスイッチの設定

接続するパーソナルコンピューターの種類によって、CLP-555リアパネルのHOST SELECTスイッチを切り換えます。

- ・ Macintosh互換機：
【^{マックintosh}Mac】（ボーレート=31,250bps、1MHzのクロックを使用）
- ・ NEC PC-9801/9821互換機：
【^{PC-1}PC-1】（ボーレート=31,250bps）
- ・ IBM-PC/AT互換機：
【^{PC-2}PC-2】（ボーレート=38,400bps）

【^{ノート}ノート】 CLP-555の【^{トゥーホスト}TO HOST】端子を使用する場合は、最初に、CLP-555とコンピューターの電源を切った状態でケーブルを接続し、その後コンピューター CLP-555の順番で、電源を入れてください。

【^{ノート}ノート】 CLP-555の【^{トゥーホスト}TO HOST】端子を使用しない場合は、必ず【^{トゥーホスト}TO HOST】端子からケーブルを抜いてください。ケーブルを接続したままだと、CLP-555が正常に動作しないことがあります。

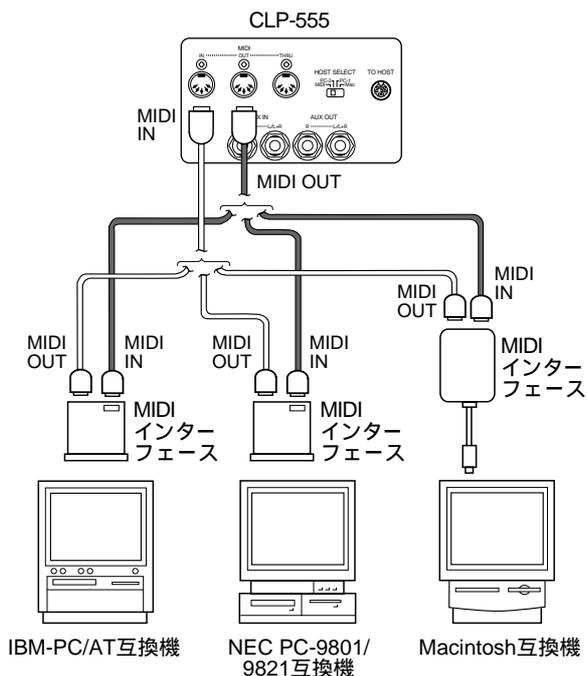
【^{ノート}ノート】 使用するソフトウェアの種類によって、上記の設定では動作しないものがあります。お使いになるソフトウェアの取扱説明書をよく読んで、適合するボーレートの位置にHOST SELECTスイッチを設定してください。

【^{ノート}ノート】 HOST SELECTスイッチを【^{PC-2}PC-2】【^{PC-1}PC-1】【^{Mac}Mac】に設定しているときは、【^{トゥーホスト}TO HOST】端子が使えますが、MIDI端子（【^{イン}IN】【^{アウト}OUT】【^{スルー}THRU】共）は使えません。（MIDIデータを送受信しません。）
逆に、HOST SELECTスイッチを【^{MIDI}MIDI】に設定しているときは、MIDI端子（【^{イン}IN】【^{アウト}OUT】【^{スルー}THRU】共）が使えますが、【^{トゥーホスト}TO HOST】端子は使えません。（データを送受信しません。）

2. CLP-555のMIDI端子を使った接続方法

接続方法

MIDIインターフェイス機器を通じてCLP-555のMIDI端子に接続します。専用のMIDIケーブルを使います。



CLP-555リアパネルのHOST SELECTスイッチの設定

CLP-555リアパネルのHOST SELECTスイッチを、【MIDI】に設定します。

ノート HOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定しているときは、MIDI端子(【IN】【OUT】【THRU】共)が使えますが、【TO HOST】端子は使えません。(データを送受信しません。)
逆に、HOST SELECTスイッチを【PC-2】【PC-1】【Mac】に設定しているときは、【TO HOST】端子が使えますが、MIDI端子(【IN】【OUT】【THRU】共)は使えません。(MIDIデータを送受信しません。)

シリアルケーブルの内部配線図

Macintosh互換機用

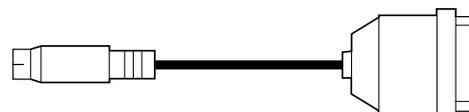
システムベリファラル 8ケーブル(YAMAHA CCJ-MACまたは同等品)



8-PIN	1	○	○	2 (HSK i)	8-PIN
ミニDIN	2	○	○	1 (HSK O)	ミニDIN
	3	○	○	5 (RxD-)	
	4	○	○	4 (GND)	
	5	○	○	3 (TxD-)	
	6	○	○	8 (RxD+)	
	7	○	○	7 (GP-)	
	8	○	○	6 (TxD+)	

NEC PC-9801/9821互換機用

8ピンミニDIN D-SUB 25ピンケーブル(YAMAHA CCJ-PC1NFまたは同等品)



8-PIN	1	○	○	5 (CTS)	D-SUB
ミニDIN	2	○	○	4 (RTS)	25ピン
	3	○	○	3 (RxD)	
	4	○	○	7 (GND)	
	8	○	○	○	
	5	○	○	2 (TxD)	

IBM-PC/AT互換機用

8ピンミニDIN D-SUB 9ピンケーブル(YAMAHA CCJ-PC2または同等品)



8-PIN	1	○	○	8 (CTS)	D-SUB
ミニDIN	2	○	○	7 (RTS)	9ピン
	3	○	○	2 (RxD)	
	4	○	○	5 (GND)	
	8	○	○	○	
	5	○	○	3 (TxD)	

プラグのピン番号

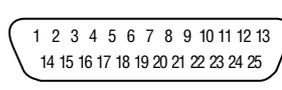
各プラグのピン番号は下記のとおりです。

オモテから見たピン番号

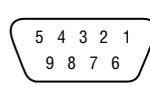
MINI DIN
8-PIN



D-SUB
25-PIN



D-SUB
9-PIN



- パーソナルコンピュータによっては上記にあてはまらない場合もありますので上記各シリアルケーブルの内部配線図とパーソナルコンピュータの端子形状によりご判断ください。

Macintoshはアップルコンピュータ株式会社の商標です。

PC-9801/9821は日本電気株式会社の商標です。

IBM-PC/ATは、国際ビジネスマシン株式会社の商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名及び商品名等は、各社の登録商標及び商標です。

故障かな? と思ったら

現象	考えられる原因	解決法
CLP-555の電源が入らない。	電源プラグがコンセントに差し込まれていません(本体側と家庭側)	電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください。(P8)
電源(POWER)スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチツ」と音がする。	電気が流れたためです。	ご心配いりません。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	ボリューム(MASTER VOLUME)が下がっています。	ボリューム(MASTER VOLUME)を上げてください。(P8)
	ヘッドフォンが接続されています。	ヘッドフォンを抜いてください。(P8)
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください。(P38)
ダンパーペダルが効かない、またはダンパーペダルを踏んでいないのに音が長く響いてしまう。	ペダルコードのプラグが本体に差し込まれていません。	ペダルコードのプラグを本体に確実に差し込んでください。(P59)
特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。

ノート ディスプレイに **5cn** が表示された場合は、CLP-555の内部に異常がありますので、お買い上げの楽器店か、巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点までご連絡ください。

付 録

CLP-555をディスクオーケストラ ユニットDOU-10とつないで楽しむ方法、その他の資料を掲載しています。

MIDIについて	P 48
音色のご紹介	P 49
デモ曲/ピアノ曲 曲名一覧表	P 50
基本設定一覧表	P 51
MIDIデータフォーマット	P 52
MIDIインプリメンテーションチャート	P 55
別売品のご紹介	P 56
仕様	P 57
CLP-555の組み立て方	P 58
索引	P 62
メモ	P 63
保証とアフターサービス	P 65

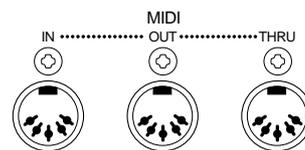
MIDIについて

MIDI(Musical Instrument Digital Interface)とは、MIDI端子を備えたMIDI機器間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。

MIDI機器間でMIDIデータを送受信することにより、外部のMIDI機器の演奏をコントロールしたり、外部のMIDI機器から自機がコントロールされたりすることができます。

- ・ MIDIでは、演奏データや命令をデジタルデータ(数値に置き換えたデータ)で送受信します。
- ・ ただしMIDI機器でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることになります。共通に扱えるデータや命令は、各機種の「MIDIインプリメンテーションチャート」を照合して調べることができます。CLP-555のMIDIインプリメンテーションチャートはP55に掲載されています。

MIDI端子



MIDI【IN】: MIDIデータを受信する端子です。

MIDI【OUT】: MIDIデータを送信する端子です。

MIDI【THRU】: MIDI【IN】から入ってきたデータを、そのまま送信する端子です。

MIDIケーブル

専用のMIDIケーブルをご用意ください。

- ・ ファンクションのMIDI機能の諸設定「F8 (P37 ~ 39)」で各種のMIDI設定が行えます。
- ・ MIDIについての詳しい知識は、各種の音楽雑誌や書籍で得ることができます。

音色のご紹介

PIANO 1(ピアノ1)

豊かに広がるグランドピアノの音。
クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。

PIANO 2(ピアノ2)

明るく張りのあるピアノの音。
ポピュラー音楽によく合います。

CLAVI. TONE(クラビノーバトーン)

クラビノーバのオリジナル音色。
タッチにより色々な表情を見せる多彩な可能性を秘めた新しい音です。

E. PIANO 1(エレクトリックピアノ1)

シンセサイザー-DXのエレピの音。
弾いた瞬間の金属的な固い音が特徴的です。

E. PIANO 2(エレクトリックピアノ2)

やわらかな音色のエレピの音。
強く弾くと芯のある音がします。

HARPSICORD(ハープシコード)

バロック音楽などでよく使われる楽器「ハープシコード」の音。
「チェンバロ」ともいいます。

STRINGS(ストリングス)

大編成弦楽器アンサンブルの音。
ピアノ音色との相性はピッタリです。

PIPE ORGAN 1(パイプオルガン1)

重厚なフルパイプオルガンの音。

PIPE ORGAN 2(パイプオルガン2)

賛美歌の伴奏などに使われるパイプオルガンの音。

デモ曲/ピアノ曲 曲名一覧表

デモ曲

音色名	曲名
PIANO1	バラード第1番ト短調作品23/ F.F.Chopin
PIANO2	霧のレイク・ルイズ/ 倉本裕基
CLAVI. TONE	コンソレーション第3番/ F.Liszt
E. PIANO1	ヤマハオリジナル
E. PIANO2	ヤマハオリジナル
HARPSICHORD	フランス組曲第5番BWV816より「アルマンド」/ J.S.Bach
STRINGS	愛のあいさつ 作品12/ E.Elgar
PIPE ORGAN1	8つの小さな前奏曲とフーガBWV553-560より「前奏曲第1番八長調」/ J.S.Bach
PIPE ORGAN2	賛美歌68番「父なる御神にみ栄えあれかし」

ピアノ曲

曲番号	曲名	参考楽譜
1.	エリーゼのために/ L.V.Beethoven	ヘンレ版 ベートーベンピアノ作品集
2.	人形の夢と目覚め/ T.Oesten	全音楽譜出版社 ピアノピース
3.	花の歌/ G.Lange	全音楽譜出版社 ピアノライブラリー ランゲピアノアルバム
4.	トルコ行進曲/ W.A.Mozart	ペータース版 モーツァルトピアノソナタ集2
5.	小犬のワルツ/ F.F.Chopin	ヘンレ版 ショパンワルツ集
6.	トルコ行進曲/ L.V.Beethoven	全音楽譜出版社 ピアノ名曲選集 上巻
7.	紡ぎうた/ A.Ellmenreich	全音楽譜出版社 ピアノピース
8.	アルプスの夕映え/ T.Oesten	全音楽譜出版社 ピアノピース
9.	パウムクーヘン/ A.Yuyama	全音楽譜出版社 ピアノ曲集 お菓子の世界
10.	渚のアデリーヌ/ P.D.Senneville	ヤマハオリジナルアレンジ
11.	荒野のバラ/ G.Lange	全音楽譜出版社 ピアノライブラリー ランゲピアノアルバム
12.	貴婦人の乗馬/ J.F.F.Burgmüller	全音楽譜出版 ピアノライブラリー ブルグミュラー25の練習曲
13.	メヌエット/ J.S.Bach	ヘンレ版 アンナ・マグダレーナ・バッハの ためのクラヴィーア小曲集
14.	トルコ風ロンド/ J.F.F.Burgmüller	全音楽譜出版社 ピアノピース
15.	ソナチネ第1楽章/ W.Gillock	全音楽譜出版社 ピアノライブラリー ギロック子どものためのアルバム

曲番号	曲名	参考楽譜
16.	エチュード・アレグロ/ Y.Nakada	音楽之友社 子どものピアノ曲集
17.	アンブロンブチュ op.90-2/ F.P.Schubert	ヘンレ版 シューベルト即興曲集
18.	ワルツ op.64-2/ F.F.Chopin	ヘンレ版 ショパンワルツ集
19.	ノクターン op.9-2/ F.F.Chopin	ヘンレ版 ショパンノクターン集
20.	ソナタK.545 第1楽章/ W.A.Mozart	ペータース版 モーツァルトピアノソナタ集2
21.	アラベスク1/ C.A.Deussy	ヘンレ版 ドビュッシー2つのアラベスク
22.	乙女の祈り/ T.Badarzewska	全音楽譜出版社 ピアノピース
23.	春の歌/ J.L.F.Mendelssohn	ヘンレ版 メンデルスゾーン無言歌集
24.	すみれ/ L.Streabbog	ドレミ楽譜出版社 ストリーボックピアノ小品集
25.	ル・ローヌ/ K.Hattori	東京音楽書院 服部克久作品集
26.	アラベスク/ J.F.F.Burgmüller	全音楽譜出版 ピアノライブラリー ブルグミュラー25の練習曲
27.	エンターティナー/ S.Joplin	ヤマハオリジナルアレンジ
28.	星に願いを/ L.Harline	ヤマハオリジナルアレンジ
29.	ミッキー・マウスマーチ/ J.Dodd	ヤマハオリジナルアレンジ
30.	ホールニューワールド/ A.Menken	ヤマハオリジナルアレンジ

基本設定一覧表

基本設定(=工場出荷時の設定)を一覧にしました。

音色選択	PIANO1
デュアル機能	OFF
スプリット機能	OFF
スプリット第二音色	STRINGS
リバーブの種類	ROOM
リバーブの深さ	10
エフェクトのON/OFF	音色ごと
エフェクトの深さ	音色ごと
トランスポーズ	0
タッチの種類	MEDIUM
タッチがFIXEDのときの音量	64
外ロノーム	OFF
外ロノーム音量	10
テンポ	120

ファンクションモードの設定

F1	チューニング	A3=440Hz
F2	音律	1(平均律)
F3.1	デュアル 音量バランス	音色の組み合わせごと
F3.2	デュアル 音程のずらし方の設定	音色の組み合わせごと
F3.3, F3.4	デュアル オクターブ設定	音色の組み合わせごと
F3.5, F3.6	デュアル エフェクトデプス	音色の組み合わせごと
F3.7	デュアル スtrings スローアタック	OFF
F4.1	スプリット ポイント	F#2
F4.2	スプリット 音量バランス	音色の組み合わせごと
F4.3, F4.4	スプリット オクターブ設定	音色の組み合わせごと
F4.5, F4.6	スプリット エフェクトの深さ	音色の組み合わせごと
F4.7	スプリット ダンパーペダルの有効域	ALL
F5.1	外ロノームの拍子	0(無拍子)
F5.2	外ロノーム音量	10
F6	左ペダル機能	1(ソフトペダル)
F7	ピアノ30曲のパート再生OFF時の音量	5
F8.1	MIDI送信チャンネル	1
F8.2	MIDI受信チャンネル	ALL
F8.3	ローカルコントロール	ON
F8.4	プログラムチェンジ送受信	ON
F8.5	コントロールチェンジ送受信	ON
F8.6	MIDIトランスポーズ量	0
F9	バックアップの設定	すべてOFF

MIDIデータフォーマット

1. ノートオン/オフ

[9nH] [kkH] [vvH] (送信用)
9nH = ノートオン/オフ・イベント(n=チャンネルNo.)
kkH = ノートNo.
(送信: 09H~78H=A-2~C8)
(受信: 00H~7FH=C-2~G8)*1
vvH = ベロシティ
(ノートオン=01H~7FH, ノートオフ=00H)

[8nH] [kkH] [vvH] (受信のみ)
8nH = ノートオフ(n=チャンネルNo.)
kkH = ノートNo.(00H~7FH=C-2~G8)
vvH = ベロシティ(ノートオフ=01H~7FH)

*1 ただし音色によって発音可能範囲を超えた場合は、オクターブ単位で折り返して発音します。

2. コントロールチェンジ

[BnH] [ccH] [vvH]
BnH = コントロールチェンジ(n=チャンネルNo.)
ccH = コントロールNo.
vvH = コントロール値

1) バンク選択

ccH パラメーター 値(vvH)
00H バンク選択MSB 00H: ノーマル
20H バンク選択LSB 00H~7FH
(70H: バリエーションオフ)
(71H: バリエーションオン)

プログラムチェンジを受信するまで、バンク選択の処理は保留されます。

2) メインボリューム(受信のみ)

ccH パラメーター 値(vvH)
07H ボリューム 00H~7FH

3) エクスプレッション

ccH パラメーター 値(vvH)
0BH エクスプレッション 00H~7FH

4) ダンパーペダル

ccH パラメーター 値(vvH)
40H ダンパー 00H~7FH
受信はハーフペダル対応です。

5) ソステヌートペダル

ccH パラメーター 値(vvH)
42H ソステヌート 00H~3FH: オフ, 40H~7FH: オン

6) ソフトペダル

ccH パラメーター 値(vvH)
43H ソフトペダル 00H~3FH: オフ, 40H~7FH: オン

7) アタックタイム

ccH パラメーター 値(vvH)
49H アタックタイム 00H~7FH

8) エフェクト1デプス(リバーブ・センドレベル)

ccH パラメーター 値(vvH)
5BH エフェクト1デプス 00H~7FH
リバーブ・エフェクトに対するセンドレベルを設定します。

9) エフェクト4デプス(バリエーション・エフェクト・センドレベル)

ccH パラメーター 値(vvH)
5EH エフェクト4デプス 00H~7FH

3. モード・メッセージ

[BnH] [ccH] [vvH]
BnH = コントロール・イベント(n=チャンネルNo.)
ccH = モード・メッセージNo.
vvH = モード・メッセージ値

1) オール・サウンド・オフ

ccH コントローラー 値(vvH)
78H オール・サウンド・オフ 00H

該当チャンネルの発音中の音を、すべて消音します。ただし、ノートオンやホールドオンなどのチャンネルメッセージの状態は保持します。

2) リセット・オール・コントローラー

ccH コントローラー 値(vvH)
79H リセット・オール・コントローラー 00H

以下のようにリセットされます。

コントローラー	設定値
エクスプレッション	127(最大)
ダンパーペダル	(オフ)
ソステヌート	(オフ)
ソフトペダル	(オフ)

3) オール・ノート・オフ

ccH コントローラー 値(vvH)
7BH オール・ノート・オフ 00H

該当チャンネルのオンしているノートをすべてオフにします。ただし、ダンパーもしくはソステヌートがオンの場合は、それらがオフになるまで発音は終了しません。

4) オムニ・オフ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
7CH オムニ・オフ 00H

オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行います。

5) オムニ・オン(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
7DH オムニ・オン 00H

オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行います。

6) モノ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
7EH モノ 00H~10H

オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行います。

7) ポリ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
7FH ポリ 00H

オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行います。

補足

- FUNCTIONでControl Change ON/OFFがOFFされているときは、コントロールチェンジは送受信されません。
- ローカル・オン/オフ、オムニ・オン/オフは送信しません。(オール・ノート・オフは、送信時もノート・オフ数を合わせます。)
- ボイス・バンク(MSB, LSB)受信時は、順番に関係なく受け付けた番号を内部バッファに保存し、プログラムチェンジを受信した時点のバッファ値を用いて実際の音色を決めます。
- 本機は常にマルチティンバー・モード、ポリ・モードであり、オムニ・オン/オムニ・オフ/モノ/ポリ・モードを受信しても、モードは変わりません。

4. プログラムチェンジ

[CnH] [ppH]
CnH = プログラムチェンジ(n=チャンネルNo.)
ppH = プログラムチェンジNo.

ファンクションでプログラムチェンジ・オン/オフがオフされているときは、プログラムチェンジは送受信されません。
各音色のプログラムチェンジNo.は下記の通りです。

音色	プログラムチェンジNo.
PIANO 1	00H
PIANO 2	01H
CLAVI. TONE	58H
E. PIANO 1	05H
E. PIANO 2	04H
HARPSICHORD	06H
STRINGS	30H
PIPE ORGAN 1	13H
PIPE ORGAN 2	10H

5. システム・リアルタイム・メッセージ

1) クロック

[F8H]

96分タイミングで送信します。
エクスクルーシブ・メッセージでクロックがエクスクルーシブにセットされた場合に、96分タイミングとして受信します。

2) スタート

[FAH]

リズム・スタート時に送信します。
受信するとソングがスタートします。

3) ストップ

[FCH]

リズム・ストップ時に送信します。
受信するとソングがストップします。

4) アクティブ・センシング

[FEH]

200msecごとに送信します。
一度FEHを受信した後、約400msec以上MIDIからの信号がこない場合は、オール・サウンド・オフ、オール・ノート・オフ、リセット・オール・コントローラーを受信したときと同じ処理をします。

MIDI受信時にエラーが起こったときは、全チャンネルのダンパー、ソステヌート、ソフト効果をオフし、オール・ノート・オフします。

6. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(ヤマハMIDIフォーマット)

[F0H] [43H] [0nH] [7CH] [F7H]

F0H,43H,0nH,7CH : n = チャンネルNo.
00H,2EH : データ長
43H,4CH,20H,20H : CL
43H,4CH,50H,27H,39H,36H : CLP'96
30H,30H : (A' - ジョイントx.y)

[パネルデータ]
[チェックサム(1バイト)] = 0 - (43H + 4CH + 20 + + データエンド)
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

[パネルデータ詳細]
(1) 音色
(2) デュアル・オン/オフ
(3) デュアル音色
(4) デュアル・バランス
(5) デュアル・デチューン
(6) デュアル・ボイス1・オクターブ
(7) デュアル・ボイス2・オクターブ
(8) デュアル・ボイス1・エフェクト・デプス
(9) デュアル・ボイス2・エフェクト・デプス
(10) デュアル・ストリングス・スロー・アタック・オン/オフ
(11) スプリット・オン/オフ
(12) スプリット音色
(13) スプリット・ポイント
(14) スプリット・バランス
(15) スプリット音色1・オクターブ
(16) スプリット音色2・オクターブ
(17) スプリット音色1・エフェクト・デプス
(18) スプリット音色2・エフェクト・デプス
(19) スプリット・ダンパー・モード
(20) リバース・タイプ
(21) リバース・デプス
(22) エフェクト・タイプ1
(23) エフェクト・タイプ2
(24) エフェクト・デプス
(25) - - -
(26) バリエーション1・オン/オフ
(27) バリエーション2・オン/オフ
(28) タッチ・センシティビティ
(29) フィックス選択時のタッチ音量
(30) レフトペダル(ソフト/スタート)
(31) - - -
(32) テンポ 絶対値・下位バイト)
(33) テンポ 絶対値・上位バイト)
(34) - - -

パネルデータ送信要求は受信しません。

7. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(ユニバーサル・システム・エクスクルーシブ)

1) ユニバーサル・リアルタイム・メッセージ
[F0H] [7FH] [XnH] [04H] [01H] [7FH]
[mmH] [F7H]

MIDIマスターボリューム
全チャンネルの音量が一度に変化します。
MIDIマスター・ボリュームを受信したときは、MIDI
入力チャンネルのみに効果があり、パネルのボ
リュームは変化しません。

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
7FH : ユニバーサル・リアルタイム
7FH : ID of target device
04H : サブID #1(機種コントロール・メッセージ)
01H : サブID #2(マスターボリューム)
7FH : ボリュームLSB
mmH : ボリュームMSB
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

または

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
7FH : ユニバーサル・リアルタイム
XnH : Xは無視、nは0~Fを受信
04H : サブID #1(機種コントロール・メッセージ)
01H : サブID #2(マスターボリューム)
7FH : ボリュームLSB
mmH : ボリュームMSB
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

2) ユニバーサル・ノン・リアルタイム・メッセージ(GM ON)
[F0H] [7EH] [XnH] [09H] [01H] [F7H]

ジェネラルMIDIモード・オン
F0H : エクスクルーシブ・ステータス
7EH : ユニバーサル・ノン・リアルタイム
7FH : ID of target device
09H : サブID #1(ジェネラルMIDIメッセージ)
01H : サブID #2(ジェネラルMIDIオン)
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

または

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
7EH : ユニバーサル・ノン・リアルタイム
XnH : Xは無視、nは0~Fを受信
09H : サブID #1(ジェネラルMIDIメッセージ)
01H : サブID #2(ジェネラルMIDIオン)
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

オンを受信することにより、MIDIがリセットされて
初期状態になります。このメッセージの実行には、
約50msecかかるため、次のメッセージとの間隔を注
意してください。

8. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(XG規格)

1) XGネイティブ・パラメーター・チェンジ
[F0H] [43H] [1nH] [4CH] [hhH] [mmH]
[7FH] [ddH] [F7H]

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
43H : ヤマハ
1nH : 機種No.
(n = CLPからの送信時は常に0、受信時は0~F)
4CH : XGモデルID
hhH : アドレスHigh
mmH : アドレスMid
7FH : アドレスLow
ddH : データ
: :
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

XGシステム・オンを受信すると、必要なパラメー
ター、コントロール・チェンジ等をリセットし、初
期状態になります。このメッセージの実行には、約
50msecかかるため、次のメッセージとの間隔を注意
してください。
XGネイティブ・パラメーター・チェンジは、データ
サイズが2または4のパラメーターは、そのサイズ分
のデータを送信します。

2) バルクダンブ(受信のみ)
[F0H] [43H] [0nH] [4CH] [aaH] [bbH] [hhH]
[mmH] [7FH] [ddH] [ccH] [F7H]

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
43H : ヤマハ
0nH : 機種No.
(n = CLPからの送信時は常に0、受信時は0~F)
4CH : XGモデルID
aaH : バイトカウント
bbH : バイト・カウント
hhH : アドレスHigh
mmH : アドレスMid
7FH : アドレスLow
ddH : データ
: :
ccH : チェック・サム
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

XGバルクダンブのアドレスおよびバイトカウン
トは、付表のMIDIパラメーター・チェンジ表(システ
ム)を参照してください。付表中トータルサイズで
区切られたデータシリーズが一つのバルクになり、
そのシリーズの先頭アドレスのみバルクデータのアド
レスとして有効です。
多量のバルクデータを受信するとエラーする場
合がありますので、トータルで512バイト以上になる場
合は512バイト以下に区切り、適当な時間間隔
(120msec以上)をあけて送信してください。

< 付表1 >
MIDIパラメーター・チェンジ表(システム)

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
00 00 00	4	020C ~ 05F4	マスター・チューン	-50 ~ 5[セント]	00 04 00 00
01				1stビット3~0 ビット15~12	400
02				2ndビット3~0 ビット11~8	
03				3rdビット3~0 ビット7~4	
				4thビット3~0 ビット3~0	
04	1	00 ~ 7F	マスター・ボリューム	0 ~ 127	7F
05	1				
06	1	34 ~ 4C	トランスポーズ	-12 ~ +12[セミトーン]	40
7E	0		XGシステム・オン	00 = XGシステム・オン	
7F	0		オール・パラメーター・リセット	00 = オン(受信のみ)	
トータルサイズ	07				

注)
020CH以下の値は-50セントになります。
05F4以上の値は+50セントになります。

28 ~ 33の値は-12 ~ -1に折返ります。
4D ~ 58の値は+1 ~ +12に折返ります。

YAMAHA [Clavinova]
 Model CLP-555 MIDI Implementation Chart

Date : 11/20, 1996
 Version : 1.0

Function	Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Default	: 1	: 1	
Channel Changed	: 1-16	: 1-16	
Mode Default Messages	: 3 : X : *****	: 1 : X : X	*1 : Poly Mode only
Note Number : True voice	: 9-120 : *****	: 0-127 : 21-108	
Velocity Note on	: 0 9nH, v=1-127	: 0 v=1-127	
Note off	: X 9nH, v=0	: X	
After Key's	: X	: X	
Touch Ch's	: X	: X	
Pitch Bender	: X	: X	
Control Change	: 0,32 : 0 : 07 : X : 11 : X : 64 : 0 : 66 : 0 : 67 : 0 : 91 : 0 : 94 : 0 : 120 : X : 121 : X	: 0 : 0 : 0 : 0 : 0 : 0 : 0 : 0 : 0	: Bank Select : Volume : Expression : Damper : Sostenuto : Soft Pedal : Reverb Depth : Effect Depth : All sounds off : Reset All : Controllers
Program Change : True #	: 0 : *****	: 0	
System Exclusive	: 0	: 0	
System : Song Pos	: X	: X	
: Song Sel	: X	: X	
Common : Tune	: X	: X	
System : Clock	: 0	: 0	
Real Time:Commands	: 0	: 0	
Aux : Local ON/OFF	: X	: X	
: All Notes OFF	: 0	: 0 (123-127)	
Mes- : Active Sense	: 0	: 0	
sages:Reset	: X	: X	
Notes : *1 = Recieve Mode is always multi timbre and Poly mode.			

Mode 1 : OMNI ON, POLY Mode 2 : OMNI ON, MONO 0 : Yes
 Mode 3 : OMNI OFF, POLY Mode 4 : OMNI OFF, MONO X : No

別売品のご紹介

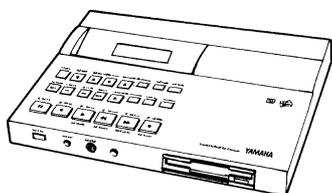
ヘッドフォン HPE-160

¥5,500



ディスクオーケストラユニット DOU-10

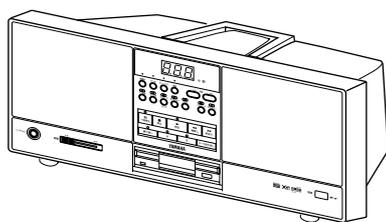
¥69,000(税別価格)



音源を備えた、16トラックのシーケンサー(録音/再生機器)です。CLP-555と接続して、「ピアノアンサンブル」(右記参照)を再生したり、CLP-555にない多彩な音色で演奏/録音したりするのに最適です。

ミュージック データ プレーヤー MDP10(伴奏くん)

¥58,000(税別価格)



スピーカー一体型の、ミュージックデータ再生専用モジュールです。「ピアノアンサンブル」や「ピアノソフト」をはじめとした幅広い種類のディスクソフトを簡単操作で再生できます。

主なディスクソフトのご紹介

ピアノ アンサンブル

ピアノとバックバンド/オーケストラのアンサンブルソフトです。鑑賞はもちろん、バックバンド/オーケストラパートをバックに、ピアノパートをご自身で演奏して楽しむこともできます。楽譜付きです。

ピアノソフト

内外の一流ピアニストの演奏が収録されたソフトです。クラシック、ジャズ、ポピュラーなどの多彩なジャンル、豊富な曲数の中から選べます。(一部CLP-555ではご利用いただけないタイトルもあります。)

ミューマ

Mumaについて

ミューマ

Mumaとは、ヤマハ独自の音楽データ店頭販売システムです。店頭を設置されているMuma専用コンピューターで、音楽データをアルバム単位または自由選曲方式でお選びいただき、専用フロッピーディスクに収録してご購入いただけます。ピアノソフトの多くを含む豊富な音楽データが取り揃えられています。

- ・ 上記のソフトについて詳しくは、ソフトカタログをご覧ください。

仕様

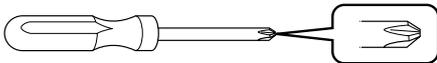
鍵盤	88鍵(A-1～C7)
音源	AWMステレオサンプリング
最大同時発音数	最大32音
音色	ピアノ1、ピアノ2、クラピノーバトーン、エレクトリックピアノ1、エレクトリックピアノ2、ハープシコード、ストリングス、パイプオルガン1、パイプオルガン2、各音色バリエーション
効果	リバーブ(ルーム/ホール1/ホール2/ステージ)、エフェクト
コントロール	デュアル、スプリット、メトロノーム、トランスポーズ、タッチ(ハード/ミディアム/ソフト/フィックス)、各種ファンクション
レコーダー	2トラック録音/再生、テンポ
ペダル	ダンパー、ソステヌート、ソフト
デモ	デモ曲9曲、ピアノ曲30曲
付属端子	AUX出力端子(R、L/L+R): 出力インピーダンス600Ω、 AUX入力端子(R、L/L+R): 入力インピーダンス10kΩ /入力感度-10dBm、 ヘッドフォン端子×2、TO HOST端子、MIDI(IN、OUT、THRU)
メインアンプ	60W(30W×2)
スピーカー	14cm×2、5cm×2
定格電源	AC100V、50/60HZ
消費電力	45W
寸法 [間口×奥行×高さ] ()内は屋根を開けた場合	1417mm×870mm×884.4mm (1417mm×870mm×1228.9mm)
重量	72kg
装備	キーカバー、譜面立て
付属品	専用高低自在イス、保証書、ご愛用者カード、取扱説明書(本書)

・仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

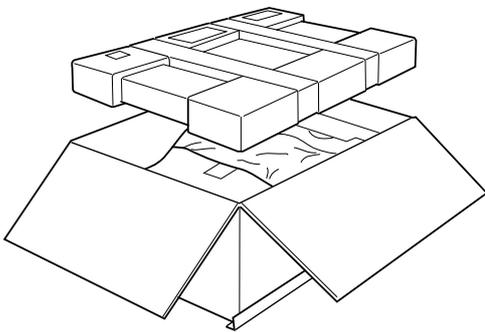
CLP-555の組み立て方

- ・ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 組み立ては、必ず2人以上で行ってください。
- ・ ネジは指定のサイズ以外のは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因となる場合があります。
- ・ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行って確実に固定してください。
- ・ 組み立て時はパッケージ全体の向きを変えたりするため、すべての部品を取り出して組み立てるのに十分なスペースのある場所で行ってください。

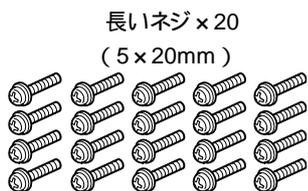
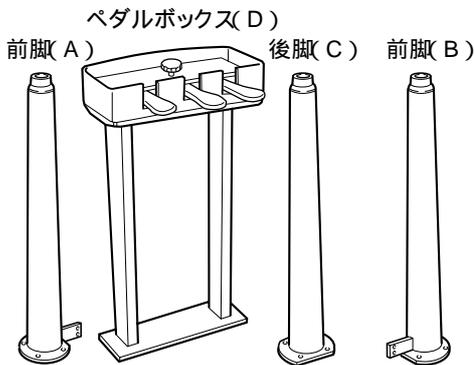
1 + (プラス)のドライバーを用意します。



2 箱を開けて、箱の上部に入っている部品を取り出します。

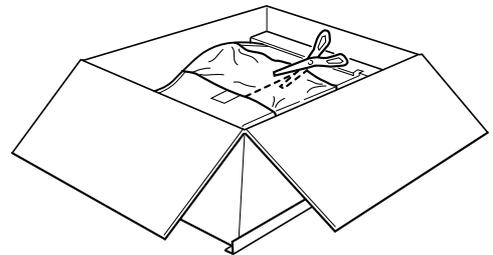


3 取り出した部品がすべてそろっているか、確かめます。



4 3本の脚(A)(B)(C)を取り付けます。

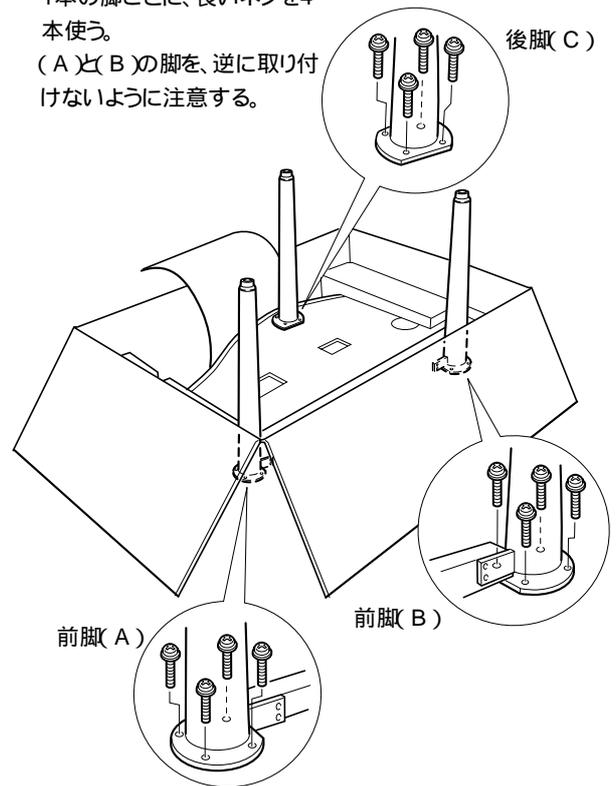
(1)ハサミかカッターで、本体の包装を開ける。



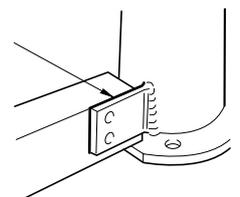
(2)本体裏板に脚を取り付ける。

1本の脚ごとに、長いネジを4本使う。

(A)と(B)の脚を、逆に取り付けないように注意する。

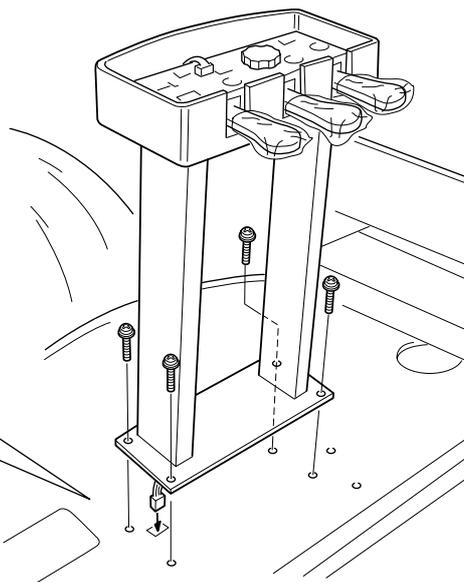
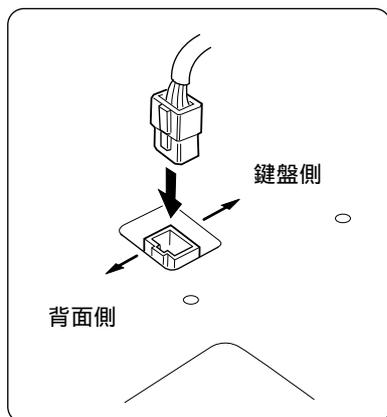


前脚(A)(B)のフランジと、本体裏板の金属フレームとの間隙が、最小となるように取り付けてください。(前脚とフレームの固定は、手順8で行います。)



5 ペダルボックス(D)を取り付けます。

(1)ペダルボックスの下板の穴からペダルプラグを引出し、プラグのつめが背面側になるように本体裏板のソケットに差し込む。プラグがうまく入らない場合は、無理やり押し込まないで、プラグの方向をもう一度確認して挿入し直す。

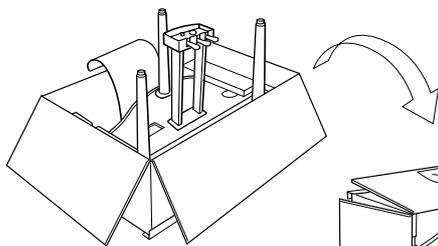


(2)ペダルコードが下板と本体との間にはさまらないように注意しながら、ペダルボックスをゆっくりと本体裏板の上に降ろし、ネジ穴を合わせる。

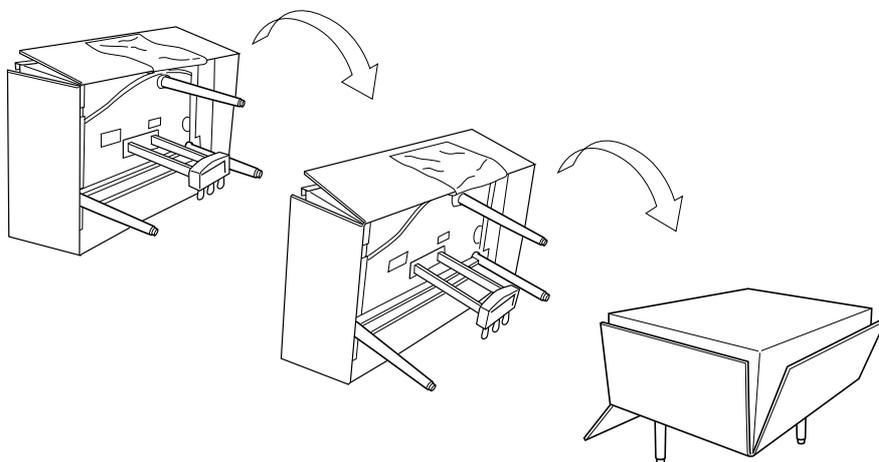
(3)長いネジ4本で、ペダルボックスを取り付ける。

6 本体と梱包箱をひっくり返します。

(1)前脚2本と後脚が、しっかりと固定されていることを確認する。

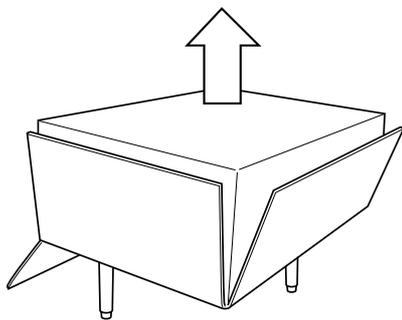


(2)前脚2本を支えにして本体と梱包箱を一緒にひっくり返し、箱が楽器の上に乗っている状態にする。

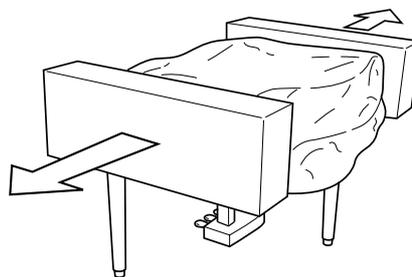


7 箱と包装を取り外します。

(1) 箱を持ち上げて取り外す。

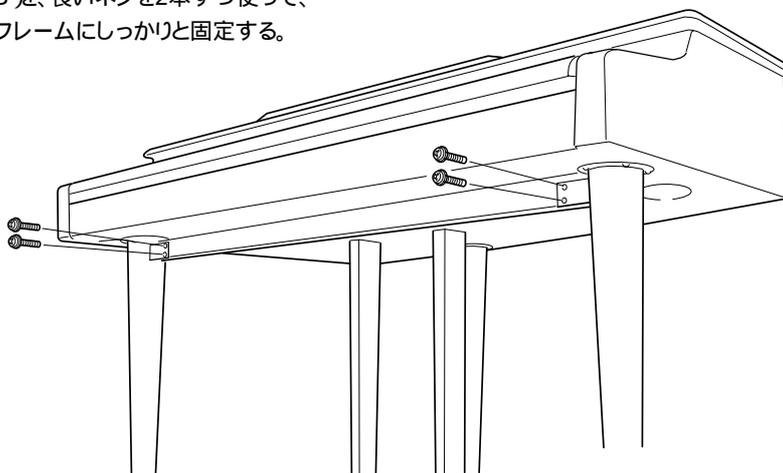


(2) 本体に残っている包装を取り除く。



8 前脚とフレームを固定します。

前脚(A)と(B)を、長いネジを2本ずつ使って、
本体裏板のフレームにしっかりと固定する。



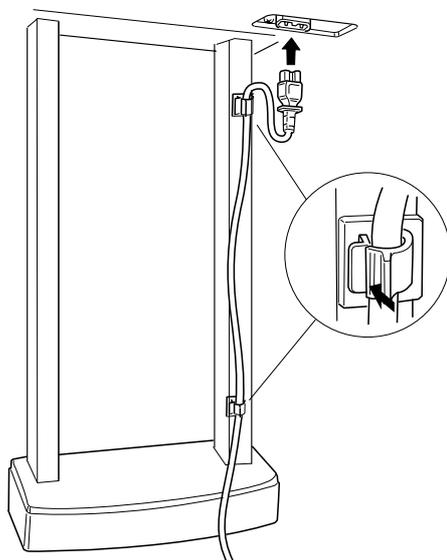
9 電源コードを接続します。

(1) コードクランプの接着面から、保護シールをはがす。

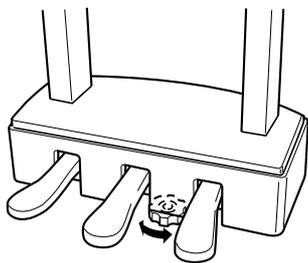
(2) コードクランプ2個を、図の位置に貼り付ける。

(3) 電源コードの本体側のプラグを、本体裏板のソケット
に差し込む。

(4) 電源コードを、コードクランプで固定する。



10 アジャスターを回します。



アジャスターを回して、床にぴったりとつける。

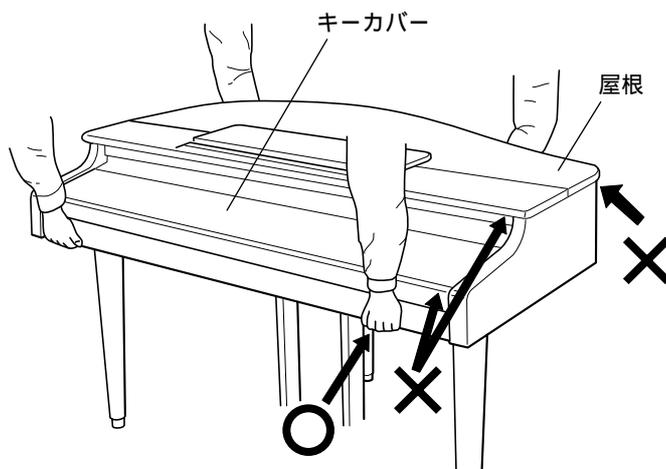
ペダルボックス(D)の裏には、本体を安定させるアジャスターが付いています。アジャスターによってペダル操作が安定し、ペダルのエフェクトコントロールもしやすくなります。アジャスターがぴったりと床についていないと、音が歪むことがあります。

組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

- ・ 部品が余っていませんか？
組み立て手順を再確認してください。
- ・ 部屋のドア等がクラビノーバにあたりませんか？
クラビノーバを移動してください。
- ・ クラビノーバをゆすると、ガタガタしませんか？
ネジを確実に締めてください。
- ・ ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？
アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ・ ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
確認してください。
- ・ 使用中に本体がきしむ、横振れする、グラつく等の症状がでたら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。

- ⊘ 屋根やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



索引

- ・ CLP-555取扱説明書の全体の流れを見たい場合は、P5「目次」をご覧ください。
- ・ ボタンの名前から説明を捜したい場合は、P10～11「各部の名前」をご利用ください。
- ・ ファンクション項目の説明を捜したい場合は、P32「ファンクション一覧表」をご利用ください。

そのほかのキーワードから説明を捜したい場合に、この「索引」をご利用ください。

- ・ 「*」印はそのページの「欄外注」に説明があることを示しています。

記号・ABC順

□の意味	4
▶の意味	4
ALL(デモモード)	16
DOU-10	56
MDP10	56
MIDI	42, 48
Muma	56
md(デモモード)	16

あいうえお順

音律	34
音量調節	8
片手練習(ピアノ30曲)	17
キーカバー	6
基本設定	13, 51
ご愛用者カード	2
工場出荷時の設定	13
再生(曲の)	30～31
再生OFFしたパートの音量調節(ピアノ30曲)	37
小項目(ファンクション)	32
ショートカット(F3.デュアルの諸設定)	36
ショートカット(F4.スプリットの諸設定)	36
ショートカット(F5.メトロノームの諸設定)	37
初期値(録音データ)とは---	28*
初期値(録音データ)の変更	29
シンクロスタート(曲の再生)	31
シンクロスタート(ピアノ30曲)	17
スプリットポイント	24
スプリットモード	24
セットアップデータとは---	38
専用高低自在イス	2
ソステヌートペダル	20
ソフトペダル	20
ソングとは---	14*
大項目(ファンクション)	32
端子	41～42
ダンパーペダル	19
ディスクオーケストラユニット DOU-10	56
ディスプレイ	12
デモ曲	14
デモ曲/ピアノ曲モード	14～18

デュアルモード	23
電源	8
電源ランプ	8
トラックの再生ON/OFF(曲の再生)	30
トラックのデータの削除	27*
パーソナルコンピューター	43～44
バックアップとは---	13*
ピアノ30曲	16～18
ピアノ30曲の練習方法	17～18
ピアノアンサンブル	56
ピアノソフト	56
左のペダル	20
左ペダルスタート/ストップ	37
ファンクションとは---	13
ファンクションモード	32～40
深さエフェクト	21
深さリバーブ	20
付属品	2
部分練習(ピアノ30曲)	18
譜面立て	6
ヘッドフォン	41
保証書	2
まん中のペダル	20
右のペダル	19
ミュージックデータプレーヤー MDP10(伴奏くん)	56
メモリーとは---	13*
モードとは---	14*
モードの相関	14*, 26*, 30*, 33*
録音モード	26～29
屋根	7

メモ

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

●保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

お買い上げ日から1年間です。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

●修理のご依頼

まず本書の「故障かな?と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持込み窓口）

北海道サービスセンター	〒064-0810	札幌市中央区南10条西1丁目1-50	ヤマハセンター内	TEL.(011) 512-6108
仙台サービスセンター	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7	仙台卸商共同配送センター3F	TEL.(022) 236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184		TEL.(044) 434-3100
東京サービスステーション*	〒108-0074	東京都港区高輪2-17-11		TEL.(03) 5488-6625
<small>(*お持ち込み修理のみお取扱い)</small>				
浜松サービスセンター	〒435-0048	浜松市上西町911	ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL.(053) 465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2	ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL.(052) 652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16	ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL.(06) 877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7	ヤマハミュージック高松店内	TEL.(0878) 22-3045
広島サービスセンター	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14		TEL.(082) 874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4		TEL.(092) 472-2134

[本社]

カスタマーサービス部 〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL.(053) 465-1158

※ 住所および電話番号は変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

北海道支店/ 地区営業課	〒064-0810	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	☎011-512-6114
仙台支店/ 地区営業課	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル	☎022-222-6144
東京支店/ 営業推進課	〒108-0074	東京都港区高輪2丁目17-11	☎03-5488-5464
関東支店/ 営業推進課	〒108-0074	東京都港区高輪2丁目17-11	☎03-5488-1680
名古屋支店/ 営業推進課	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28	☎052-201-5145
大阪支店/ 営業推進室	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館	☎06-252-2390
広島支店/ 営業推進課	〒730-0031	広島市中区紙屋町1-1-18	☎082-244-3748
九州支店/ 営業推進課	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	☎092-472-2152
電子楽器営業部/ クラビノーバ営業課	〒430-8650	浜松市中沢町10-1	☎053-460-3275

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

クラビノーバ インフォメーションセンター
営業時間：月～金 10:00～12:00 13:00～17:00

フリーダイヤル  0120-834808

クラビノーバ インターネットホームページ
<http://www.yamaha.co.jp/product/cl/>